

# 茗溪



正月

2020

令和2年

no.1104

## 目次

- グラビア …… 01～02
- 新年のご挨拶 茗溪会理事長 江田昌佑 …… 03
- 年頭挨拶 筑波大学長 永田恭介 …… 04
- 謹賀新年 令和2年 今年もよろしくお願いいたします …… 05
- 箱根駅伝出場という悲願達成の裏側にあるもの …… 06
- 東京茗溪会・第7回総会 報告 …… 07
- 東京茗溪会講演会「日本の理科教育はどうなるの？」 …… 08～09
- 茗溪・筑波産業人倶楽部「OB・OG キャリアカフェ」 …… 10～11
- 公開講座「英語のはなし」第18弾 …… 12～13
- 茗溪・東西南北 …… 14～15
- Peer Garden (交流広場) …… 16～17
- 茗溪会と筑波大学名誉教授の会との連携に際して …… 18
- 筑波大学は今 …… 19
- 茗溪創基 150年記念事業寄付金募集趣意書 …… 20
- 寄付 募集要項 …… 21
- 桐の葉のつどい …… 22～23
- 茗溪学園だより …… 24
- 追悼録 …… 25
- 令和元年 秋の叙勲 おめでとうございます …… 26
- 広報 …… 26
- 表紙のことば …… 26
- 編集後記 …… 26





日本のバウムクーヘンの歴史は  
ユーハイムから始まりました。



まっすぐなおいしさ

日本で初めてバウムクーヘンが焼かれたのは1919年(大正8年)のこと。  
創始者カール・ユーハイムの焼きあげたバウムクーヘンへの想いは  
今も変わらず、職人から職人に受け継がれています。

www.juchheim.co.jp/juchheim  
〒650-0046 神戸市中央区港島中町7-7-4

ユーハイム®

お客様係 TEL 0120-860816

受付時間：平日(月～金)9:30～17:00(年末年始を除く)  
携帯電話・PHSからはご利用いただけません。

## 食の提供 (アウトソーシング)

社員食堂 / 寮・研修所・保養所・研究施設 /  
学生食堂 / レジャーレストラン / カフェ

お仕事に、勉学にがんばる皆様を食事面からサポートいたします。  
空間づくりなども含めた委託運営を行っています。



### 学生食堂

～学校ブランドを高める空間づくり～

学生の皆様にとって、大切な思い出の一つになる学生食堂。  
学校それぞれの教育方針に沿って運営を行いながらも、  
学生層に合わせ、トレンドを意識したメニューをご用意。  
カジュアルさとおいしさで好評をいただいています。  
また、売店の運営やスクールバスの運行など、トータルでの  
サポートも可能です。

### 寮・研修所・保養所・研究施設

～やすらぎと栄養バランスを考えた食事提供～

各施設の運営方針やご利用者様の年齢層に応じたメニューを  
提供。栄養バランスを考慮した食事を提供するだけでなく、  
研修施設では研修期間や日程などの利用状況に対応した運営を  
心がけ、「食」を通じて家庭にいるような安らぎを提供すること  
を目指しています。食事以外にも、施設管理全般にわたる管理  
業務も行っています。



はぐくむ、大切なことすべて  
**SHIDAX**

シダックスフードサービス株式会社

〒160-0021 東京都新宿区歌舞伎町1-17-10 シダックス新宿セントラルロード  
TEL.03-6632-5052 (代表)

**KAIT**

# 力と自信がつく教育で 「考え、行動する人材」を育成します。



- 工学部
  - 機械工学科(航空宇宙学専攻含む)
  - 電気電子情報工学科
  - 応用化学科
  - 臨床工学科(臨床工学技士養成課程)※
- 創造工学部
  - 自動車システム開発工学科
  - ロボット・メカトロニクス学科
  - ホームエレクトロニクス開発学科
- 応用バイオ科学部
  - 応用バイオ科学科
  - 栄養生命科学科[管理栄養士養成課程]※
- 情報学部
  - 情報工学科
  - 情報ネットワーク・コミュニケーション学科
  - 情報メディア学科
- 看護学部
  - 看護学科[看護師養成課程]※

※2020年度に新学部への再編を構想中

常務理事 河野 隆二(S47農)  
教職センター 大畑多津雄(S52理 数)(神奈川茗溪会会長)  
教職センター 望月 正大(S51理 数)(同 副会長)  
早期学生支援室 掛原 豊(S54農林学類)



**神奈川工科大学**  
KANAGAWA INSTITUTE OF TECHNOLOGY

〒243-0292 神奈川県厚木市下荻野1030  
TEL.046-291-3002 URL:http://www.kait.jp/



# 産業人倶楽部 OB・OG キャリアカフェ

(P.10 ~ 11 参照)



講師紹介



# 東京茗溪会第7回総会

2019年12月1日 於 茗溪会館

(P.7 参照)



田淵宏太郎氏 内山龍人氏 尾嶋好美氏

(P.8～9 参照)

公開講座  
英語のはなし 第18弾  
「単語の秘密に挑む」

2019年11月9日

(P.12～13参照)

# 新年のご挨拶



一般社団法人 茗溪会  
理事長

江田 昌佑

新年明けましておめでとうございます。

全国会員の皆様のみますのご健勝とご活躍を心から  
祈念いたします。

今年こそ災害のない平穏な日常であることを祈ります。  
昨今の被災で不自由な日々を過ごしておられる方々に衷  
心よりお見舞いを申し上げます。

今年はいよいよ2020東京五輪・パラリンピックが  
開催されます。多くの茗溪の仲間がアスリート、役員、  
ボランティアや運営等々に関わります。スポーツ界のみ  
ならず、世界の人々が共通して、人類の希望に胸をふく  
らませ、人類の能力を信じる絶好の機会になると期待し  
ています。

われわれが期待と激励を送り続けた母校駅伝チームが  
26年振りに箱根駅伝の本選に出場しました。金栗四三さ  
んの敷かれた箱根駅伝、そして第1回優勝から100年とい  
う記念すべき年に当たります。この誌面が届く頃は駅伝  
チームの敢闘の成果が周知されていることでしょう。あ  
らためて選手達の活躍を暖かな拍手で讃えたいと存じま  
す。

茗溪会は、茗溪創基150年記念事業の一環事業として、  
箱根駅伝の応援を支援することにしました。昨年の応援  
規模を拡大し、大学、陸上競技部OB・OG会など関係  
機関と連携しながら、本部、東京、神奈川など近県組織  
をふくめた同窓有志の皆さんに連絡し、可能な限りの態  
勢を整えて対応しました。ご尽力ご協力下さった関係各  
位に感謝を申し述べておきます。

さて、茗溪創基150年記念事業の進展状況について申し  
述べておきます。昨春の総会以降2022年までの約4  
年間に亘って記念事業を継続・展開して参っております。  
昨年からの事業としての占春園再生プロジェクトは、  
当初の目的を達成し完了しました。

また、本部理事会は茗溪・筑波産業人倶楽部を首都圏  
に発足させ、第6回の集会を経ながら成果を挙げていま  
す。産業人倶楽部の全国地域ブロックでの立ち上げ準備  
も進行中と報告されています。心強い限りです。本件の  
活動の全国展開の大会を明年での実現の可能性を検討中  
です。

更に、記念事業活動の一環として、本部理事会は、母  
校学生活動等に対する支援活動、物故者の追悼の集い  
等々の行事についても順調な展開をしています。

その他集約された多彩な諸企画について、茗溪創基150  
年記念事業実行準備委員会（以下記念事業委員会・委員  
長 河本理事）は会を重ねながら鋭意実現に向けて邁進  
しております。

記念事業の所要経費は拠金方法によって賄うこととし、  
全国会員の皆様にも多大の協力をお願いしています。この  
半年間の拠金の経過は期待に程遠い状況にあります。

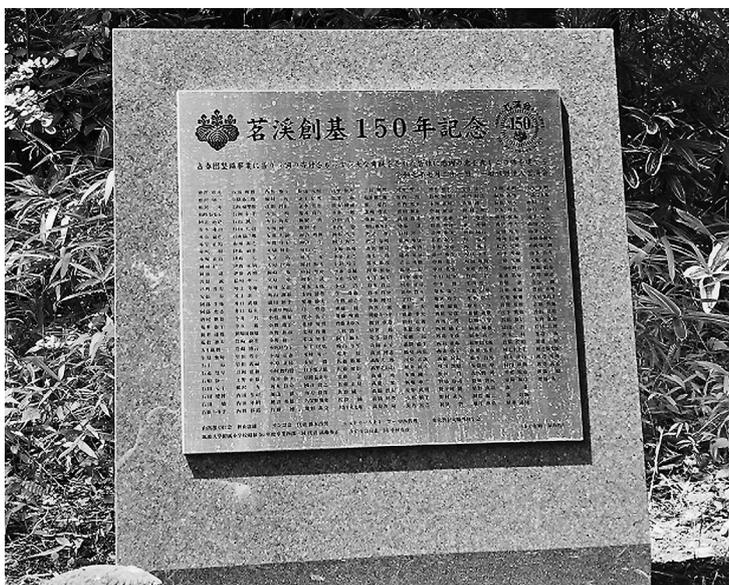
そこで、理事会及び記念事業委員会は、今回、茗溪創  
基150年記念事業ブランド・テーマ「伝承と創造」を掲げ、  
茗溪・筑波基金、「茗溪・筑波FUND (Sports, Educa-  
tion, Business, etc)」を設定して、皆様に周知をはかり、

重ねて協力へのお願いをいたすことにしました。

この記念事業は茗溪会あげでの取り組みであり、本会  
会員こそって自らの力を協力・結集して実施することが  
重要かつ必要でありましょう。  
有り難いことに、昨年末、会員の方からご意見や激励  
を頂戴するようになり、その度に感激し、また無限の希  
望を与えていただいています。

理事会におきましても、記念事業進展のプロセスと成  
果は、本会の進運にかかわるものと考えています。

最後になりますが、全国茗溪会会員の皆様に対し、本  
会の益々の発展のためにご協力ご鞭撻を切望してご挨拶  
といたします。



占春園再生プロジェクト寄付者ご芳名記念碑

# 年頭挨拶



筑波大学長

永田 恭介

明けましておめでとうございます。

旧年中は、茗溪会の皆様には様々なご支援をいただき誠にありがとうございました。

昨年5月には、平成から令和へと年号が変わりました。皆さまは令和最初の正月を心新たにお迎えになつていらっしゃるでしょう。新しい年号のもと明るい未来を築いていきたいものです。しかし、社会は激動しています。科学と技術の進歩を原動力に社会は大いに発展し、我々はその恩恵に浴してきました。一方で、それらの進歩は、貧困や格差の問題、人口や食料・水の問題、地球温暖化あるいはテロや戦争など、様々な問題を生んでいます。しかし、そうした問題の解決にも科学と技術の発展は重要だと考えられます。大学は基礎、応用あるいは開発に関わる研究を通じてこれら課題の解決に貢献する使命を持っています。同時にそれを継承し、発展・牽引する人材の育成にも責務があります。特に、国を支える基盤である国立大学には、将来の我が国のあるべき姿を見据え、SDGsやSociety5.0の実現、人生100年時代への対応、地方創生などの諸課題の解決に貢献することが求められています。本学は、このような国立大学としての役割を果たしつつ、従来の国立大学では進まなかった改革を牽引する使命を持っています。

狩猟、農耕、工業、情報の次に来る社会がSociety5.0です。これからは分析した情報を人間のためにどう使うかが問われるため、デジタルサイエンスを駆使して多様な課題の解決に挑戦する人材が求められます。国における人材力とは、人材の数×人材の水準です。人材の数が減る我が国では、個々の人材の水準を上げていかなければなりません。広い視野を持ち、卓越した専門性を備えることで、人材の水準が上がると考えられます。そのため必要なことは、アカデミズムのインターディシプリナリティを上げることです。言い換えると、文理横断の教養であり、学際性に富んだ教養ということになります。直面している多くの課題は、一つの専門だけでは解決できないような複雑な課題だからです。

私事ですが、昨年6月に国立大学協会の会長に選任されました。過去に2名の会長のもとで副会長を務めてきましたが、何とかこの重責を果たしながら、我が国の国立大学総体の力を示している状況の困難さを実感しています。我が国の学術論文の5割は国立大学から出ていますから、日本が世界と研究で戦うとしたら、戦う装備が整っている国立大学が中心となります。その中で重要な役割を担うのが大学院です。日本の研究力を上げるために大学院教育の見直しを進めていかなければなりません。

このような認識のもと、本学の大学院課程は、現在の8つの研究科を3つの大きな研究科に相当する「学術院」に改組し、その中にそれぞれが固有の、加えて分野横断的な人材育成目的を持った学位プログラムへ全面移行します。また、学士課程においては今年度から情報学の必修単位を2単位から4単位に増やしました。加えて2021年度の入学試験からは個別学力検査(前期日程)の一部において、学類を指定しない大括りの学士課程入試を導入します。導入にあわせて低学年時のカリキュラム改革を行うことで、広く募集し、広く学んだ学生が望む専門分野を探しやすくする効果を狙っています。

昨年10月2～4日には、つくば国際会議場において「筑波会議2019」を開催しました。本学が過去9年間に亘って開催してきた研究ショウケースの役割を

含む国際会議であるTGSW (Tsukuba Global Science Week) を基盤に、本学とつくば研究学園都市の役割を世界に発信する機会として、また産官学の壁を越えて世界の若手研究者や学生がつくばに集まり社会と科学に関する問題を議論するプラットフォームとして企画したものです。「筑波会議2019」には、60カ国を越す国、120を越える機関から、300名あまりの海外からの参加者に加えて1,500名の参加があり、成功裏に開催することができました。今後は隔年で開催を予定しています。

国の財政状態は良くなる気配がなく、大学活動の基盤をなす運営費交付金についても、配分原理が変わり安定的な財源ではなくなりつつあります。このような状況下においては、自由で闊達な教育研究の推進のためには財務戦略の強化を図り運営費交付金以外の資金調達が必要不可欠です。教育研究においては、先端を切り開く基礎研究の充実とともに、未来創造に欠くことができない新たな学術研究分野の創成や、社会課題を解決する科学技術に関する研究分野の強化が重要です。これらを基盤に、外部資金、特に産業界からの資金の呼び込みが必要です。本学は、昨年には米国西海岸(シリコンバレー)ならびに東海岸(ボストン)に産学連携拠点を創設しました。新たに発足した組織対組織連携を運営するオープンイノベーション国際戦略機構では、学内、国内ばかりでなく海外の産学との連携も含めた、スマートシティ、スーパーシティに関する開発研究をスタートさせることにしました。このようにして、大学は教育研究の改革と教育研究活動を支える財務改革の両輪で進めていかなければなりません。

こうした活動を含め各方面で、今年も学生、教職員は持てる力を大いに発揮していこうと決意しています。この拙文が出る頃には、26年ぶりに出場を果たした箱根駅伝での活躍もご覧になったことでしょうか。また、今年の夏には、二度目の東京オリンピック・パラリンピックの本学教職員、OB・OGの活躍も楽しみです。伝統ある貴会と同窓生諸兄には、ますますのご発展を祈念申し上げますとともに、本学の様々な活動にご理解をいただき、本年もご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



# 謹賀新年



一般社団法人  
茗溪会

令和2年

今年もよろしくお願いたします



<p>一般社団法人 茗溪会 理事長</p> <p><b>江田 昌 佑</b> (昭和30年卒教大体)</p> <p>〒112-0012 東京都文京区大塚1-5-23 TEL 03-3491-0136</p>	<p>一般社団法人 茗溪会 副理事長</p> <p><b>井 口 武 雄</b> (昭和40年卒東京教育大学法政) 三井住友海上火災保険(株)</p> <p>〒101-8011 東京都千代田区神田駿河台3-9 TEL 03-3259-3111</p>	<p>一般社団法人 茗溪会 副理事長 日本体育大学 教授</p> <p>教育学博士 <b>阿 江 通 良</b> (昭和48年卒教大体育)</p> <p>日本体育大学 〒158-8508 東京都世田谷区深沢7-1-1 TEL 03-5706-0826 E-mail:ae@nittai.ac.jp</p>
<p>一般社団法人 茗溪会 常務理事</p> <p><b>高 野 力</b> (昭和48年卒木工)</p> <p>〒112-0012 東京都文京区大塚1-5-23 TEL 03-3491-0136</p>	<p>一般財団法人 筑波学都資金財団</p> <p>理事長 <b>田 中 正 造</b> (昭和36年卒教大健)</p> <p>〒305-0005 つくば市天久保1-13-5 TEL 029-851-5152</p>	<p>学校法人 茗溪学園 茗溪学園中学校高等学校 国際バカロレアDPコーススタート</p> <p>理事長 <b>中 川 喜久治</b> 校長 <b>田 代 淳 一</b> (昭和59年筑波大修士教育研究科・理科)</p> <p>〒305-8502 つくば市稲荷前1-1 TEL 029-851-6611</p>
<p>一般社団法人 茗溪会 事務局</p> <p>常務理事 事務局長 <b>矢 野 正 人</b> (昭和53年卒院修農)</p> <p>大塚事務所長 <b>室 岡 和 彦</b> (昭和44年卒教大数)(平成1年卒筑修教)</p> <p>筑波事務所長 <b>立 山 雅 博</b></p>	<p>一般社団法人 茗溪会 理事</p> <p>筑波大学 副学長 <b>佐 藤 忍</b> (昭和60年卒筑博生物)</p> <p>〒305-8572 つくば市天王台1-1-1 生命環境系 TEL 029-853-4672 E-mail:sato.shinobu.ga@u.tsukuba.ac.jp</p>	<p>一般社団法人 茗溪会 理事</p> <p><b>真 田 久</b> (昭和54年卒筑体) (昭和56年卒筑修体)</p> <p>〒112-0012 東京都文京区大塚1-5-23 TEL 03-3491-0136</p>
<p>一般社団法人 茗溪会 理事</p> <p><b>柴 田 淳</b> (昭和52年卒教大体) (昭和56年卒筑修体)</p> <p>〒112-0012 東京都文京区大塚1-5-23 TEL 03-3491-0136</p>	<p>一般社団法人 茗溪会 理事 福岡経営労務事務所</p> <p>所長 社会保険労務士 <b>福 岡 一 雄</b> (昭和32年卒教大法政)</p> <p>〒125-0042 東京都葛飾区金町3-27-3 TEL 047-361-2618 FAX 047-361-2643</p>	<p>一般社団法人 茗溪会 理事</p> <p>桜美林大学 入学部 相談役 <b>川 田 孝 一</b>(組織委員会) (昭和39年卒総農)</p> <p>母校の第96回箱根駅伝競走本線出場を祝す!</p> <p>〒194-0294 東京都町田市常磐町3758 電話(FAX) 042-797-6196(桜美林大学内) E-mail kawada@obirin.ac.jp</p>
<p>一般社団法人 茗溪会 青森茗溪会</p> <p>支部長 <b>前 田 济</b> (昭和59年卒筑一自)</p> <p>幹事長 <b>工 藤 誠 司</b> (平成9年卒筑体)</p> <p>〒030-0918 青森市けやき1-9-5</p>	<p>一般社団法人 茗溪会 茨城茗溪会</p> <p>会 長 <b>高 村 祐 一</b> (昭和61年卒筑人文)</p> <p>事務局長 <b>太 田 泰 助</b> (平成11年卒筑院芸)</p> <p>〒310-0011 水戸市三の丸3-10-1 茨城県立水戸第一高等学校内</p>	<p>一般社団法人 茗溪会 千葉茗溪会</p> <p>支部長 <b>百 瀬 明 宏</b> (昭和55年卒筑一人文)</p> <p>事務局長 <b>大 久 保 利 宏</b> (平成30年卒筑修人間)</p> <p>〒263-0043 千葉市稲毛区小仲台</p>
<p>一般社団法人 茗溪会 静岡茗溪会</p> <p>支部長 <b>齊 藤 浩 幸</b> (昭和58年卒筑二農林)</p> <p>事務局長 <b>綾 部 信 明</b> (昭和58年卒筑体)</p> <p>〒411-0033 三島市文教町1-3-18</p>	<p>一般社団法人 茗溪会 和歌山茗溪会</p> <p>会 長 <b>川 久 保 尚 志</b> (昭和62年卒筑二生)</p> <p>事務局長 <b>川 口 勝 也</b> (平成1年卒筑体)</p> <p>〒641-0014 和歌山市毛見228-24</p>	<p>一般社団法人 茗溪会 島根茗溪会</p> <p>支部長 <b>境 英 俊</b> (昭和59年卒筑修体)</p> <p>事務局長 <b>西 村 覚</b> (平成1年卒筑修体)</p> <p>〒690-8504 松江市西川津町1060 島根大学教育学部理科教育専攻 塚田研究室内</p>

## 箱根駅伝出場という

### 悲願達成の裏側にあるもの

筑波大学陸上競技部 男子駅伝監督 弘山 勉

私が箱根駅伝予選突破に挑戦すること5回目にして、私立大が独占する現代の箱根駅伝の牙城を、ついに崩すことができました。練習の出来具合から手応えはあったにせよ、第6位に筑波大学の名前がコールドされた瞬間の気持ちの昂ぶりを抑えることはできず、学生たちや支援者・応援者の方々と喜びを分かち合った瞬間は、最高の気分でした。周囲には、今回の予選突破を驚かれたわけですが、国立大である筑波大学が箱根駅伝に出場できたのは何故か。それは奇跡ではありません。

筑波大学には、東京高等師範学校→東京教育大→筑波大学と、時を経て脈々と受け継いできた歴史と伝統、そして信頼があります。それをブランドと言う人がいるかもしれません。では、筑波大学のブランドとは一体何でしょう。その解釈は、人それぞれですが、今の時代、大学も法人化が進み、理念や経営など企業にも通じる戦略が求められるため、ブランドも意図的に作る時代になってきている気がします。

しかし、どんな経営戦略を採ろうにも、筑波大学が失ってはいけないものがあるはずです。言うまでもなく、嘉納治五郎先生の『自他共栄』『精力善用』です。その教えを受けた金栗四三・大先輩が日本人初のオリンピック選手となり、箱根駅伝を創設しました。箱根駅伝に込めた想いは「己を高めるために粘り強く創意工夫する学生の育成」にあったと聞きます。

そんな想いと裏腹に、箱根駅伝の人気は高まり、今や隆盛の時を迎え、箱根駅伝を経営戦略に絡めている大学も少なからずあるでしょう。「果たして、それが学生のためになるのか」という疑問を呈する人も多いです。しかし、大学の経営にも影響を与えるほどの大イベントに発展した今、そんな意見など響くはずはありません。

そこで立ちあがったのが筑波大学。「学生スポーツの原点に帰ろうよ」という主張が『筑波大学箱根駅伝復活

プロジェクト』の産声を上げた経緯で、それが2011年のことです。プロジェクトが翌年正式にスタートしてからも、予選突破には遠く及ばない状況が続きました。当たり前です。原点に帰るだけで、勝負できるレベルではありません。私学は生死をかけて箱根駅伝に力を注いでいるのですから。成す術もなく3年の時が過ぎたのは、ある意味では当然と言えます。

駅伝はその母体の力を示すと言い、総合力が問われる競技だと思っています。正に箱根駅伝は各大学の総合力で戦うものです。筑波大学は課外活動に使えるお金が少なく、特別な入試制度もありませんが、たくさんの良質な資源や知財があります。2015年に男子駅伝監督に着任した私は「バラバラに存在するそれらの資源をどう結び付けるか」が鍵になるだろうと感じました。

それからの4年間、学生たちと共に本気で箱根駅伝を目指すチーム作りを進め、その活動状況をホームページやSNSで頻繁に情報発信し、全国を飛び回って高校生に想いを伝え続けました。簡単に言うくと、筑波大学が失ってしまった箱根駅伝のブランド（信頼）を取り戻す作業に明け暮れた日々でした。

筑波大学が本気で箱根駅伝を目指していることが伝わり、学生の記録向上とチームの活性化が認知されるに連れ、優秀な高校生の入学が増えていきました。必然的にチームの成績が向上し、筑波大学の長距離（箱根駅伝）ブランドは回復傾向に動き出していったように思います。同時に学内の資源を結びつけ、外資を獲得する作業を着々と進めました。

学内に協力の目を向け、スポーツ栄養学研究室と提携した栄養サポート体制の構築、共同研究による各種身体計測の定期化を進めました。その他、体育心理学の協力で実現するメンタルトレーニングを筆頭に、体育系研究領域との連携は大きな力となります。課外活動を支える学生部も有難い存在です。

学外への協力要請にも動きました。陸上競技部OB・OG会と茗溪会に支援を要請し、2016年から挑戦したクラウドファンディングは4年連続で成立しました。それは資金面での援助だけが目的ではなく、応援者を増

やすことも企図しています。当然、チームには重責が課せられるわけですが、それも良い意味で活動の監視になるかもしれません。大学と熊本県の連携協定によって補助が実現した熊本合宿もそうですし、合宿誘致助成金を支給してくれる自治体の制度にも大いに助けられています。

つまり、学内に留まらず、学外までの広い範囲で『チームつくばの結成』を目指してきました。その支援体制は、着々と築かれていると思います。こうして、学生が頑張ることができる環境を整えた結果、チームは成長を遂げ、予選突破を意識する段階に突入したのです。

そして、迎えた2019年度。箱根駅伝出場のチャンスが高まっていたチームは、まとまりを欠いていました。しびれを切らした私は、学生と距離を置くことを決意しました。「本気でないチームを私が指導する必要はない」と。学生にチーム改革のきっかけを与えたのです。

すると、学生たちは、ミーティングを100回以上も重ね、本気のチームを作り上げました。そうなるや、チームの成長は、あつと言わずです。8月からグングン調子を上げ、9月には「予選突破の可能性がある予選突破の可能性があるかも」から10月には「予選突破が確信できる」状態までに急成長を遂げたのです。若者の成長力は素晴らしいものがあります。箱根駅伝予選会を突破できるチームに改革した若者たちの心の中心にあったのは、紛れもなく『自他共栄』だったと思います。

筑波大学は、多くの優良な資源を有しています。何より、沢山の優秀な学生が在籍しています。それらを結びつけてこそ、それぞれの分野で、かたちを成し、大きな成果が生まれるのです。「活動費もない・入試制度も厳格な国立大が、どうして箱根駅伝に出場できるのか？」不思議に思うかもしれない偉業の裏側が暴露されればさるほど、筑波大学のブランドが高まるでしょう。さらに私は、箱根駅伝を通して、全国に点在する卒業生を結びつけることで筑波大学の総合力をさらに高めることができると思っています。その総合力には、当然のことながら、茗溪会の存在が含まれていることをお伝えし、私の手記とさせていただきます。

# 東京茗溪会・第7回総会報告

東京茗溪会 副会長 真当 哲博

令和初の『第7回東京茗溪会総会・講演会・懇談会』が、去る12月1日、茗溪会館で行われました。

東京都の行政区や職域ごとに分かれていた支部を統合して7年、途中「東京都茗溪会」から「東京茗溪会」と改名した当会は、今回も30名余りの会員が集い、年に一度の有意義な時間を過ごすことができました。

総会で、高橋基之会長の挨拶の後、茗溪会理事である筑波大学教授・守橋健二様より来賓のご挨拶をいただき、加えていま大学が2021年度から取り入れようとしている総合学類学域群といった構想について披露いただきました。また茗溪会と大学との関係も、教職に就こうという学生に対して茗溪会が行う研修や、茗溪・筑波産業人倶楽部が催す企業人OB・OG会社説明会も、学生の間で非常に好評であることなどを紹介いただきました。

その後の議事においては、平成30年度総会から本日まででの活動報告と決算が承認され、併せて令和元年度の活動方針と予算・役員幹事が承認されました。

次で行われた記念公演では、筑波大学生命環境科学研究科で博士(学術)を取得された尾嶋好美先生に、「日本の科学教育はどうなるの?」という演題でご登壇いただきました。併せて先生がコーディネーターを務める、科学に強い興味関心をもつ児童・生徒のためのプログラム・筑波大学GFESTの出身である2人の学生さんにもご自身の研究成果のプレゼンをいただくという、非常に密度の濃い講演会となりました。

尾嶋先生のお話は、まずは自著である『ろうそくの科学が教えてくれること』を素材に、英科学者、マイケル・ファラデーの講演をまとめた「ろうそくの科学」に訳しきれない、ファラデーの子どもたちへのメッセージ、科学的な見方・考え方がいかに彼らの人生を実り多いものにするのかといったエールが隠れていることを引き



守橋健二茗溪会理事

科学離れが叫ばれて久しい日本の現状をただ嘆くのではなく、筑波大学発信のアクションが進んでいる様子をご紹介いただきました。

GFESTとは、2008年より筑波大学が継続してきている、科学に強い関心のある中学生・高校生の支援活動です。中学3年生と高校生15名を選出、教員や院生が指導者となり、研究環境を提供し、彼らの研究を応援する取り組みで、受講生はすでに40名を超えているそうです。

その成果として、2人の学生さんの登壇につながります。

内山龍人さん(生物学類2年)は「アブラゼミ終齢幼虫の羽化場所決定要因について」という研究発表を、また田淵宏太郎さん(工学システム学類2年)は「プロペラの効率を上げる方法」という研究発表を、それぞれ行っていたいただきました。その中で、ご自身の興味関心をどのように育んできたか、その過程でGFESTに出会い、研究できる環境や指導者と出会えたことの喜び、そして何よりも自分の関心ごとに同じように興味を示してくれて話のつてくれ、あるときはライバルになる同年代の仲間との出会いを、実に楽しみに語ってくださいました。印象的でした。講演後の質疑応答では、参加会員から非常に多くの質問が繰り出されました。研究内容そのものへの質問や、いまの日本の科学教育に不足している人材や環境や資金といったリソースの問題、あるいは欧米の理系学生と日本の男女比の問題など、講演時

合に出されました。その思いの先に、尾嶋先生ご自身が仕掛ける、GFESTを始めとした科学好きの児童・生徒の芽を「つぶさずに生き生きと育む仕組みを紹介され、

間をめぐれば使った関連な意見交換が行われ、科学教育に託す会員個々の夢を感じた次第です。その熱気を携えたまま、交流会へと突入しました。後半は筑波大学・永田学長が駆けつけてくださいました。聞けばこの日行われたインカレ・バレーボール決勝の応援から途中退席してこの東京茗溪会交流会に参加くださったとのこと。歓談の途中で「女子バレーボール優勝」の吉報が飛び込んできて、会場全体に波打つ歓声が上がった次第です。

また学長のお話の中では、26年ぶりに箱根駅伝に復活した陸上部のことにも触れられ、他の私学の潤沢な資金に比べて非常に苦勞をしている現状を披露、クラウドファンディングで資金を集めている活動への協力を呼びかけられました。この記事が掲載される頃には箱根駅伝の結果は出ていたわけですが、なんとかシード入りを果たしてくれていることを願っています。

次回第8回は令和2年11月29日(日)の予定です。異業種異年齢の同窓が集うこの会は、毎回必ず新しい出会いと発見があり、人脈を広げることができ、また日々の生活にひとつの潤いを与えてくれる機会でもあります。皆さまと次回茗溪会館でお会いできるのを楽しみにしています。よろしくご予定くださいませ。



田淵宏太郎氏・永田恭介学長・内山龍人氏・尾嶋好美氏

# 日本の科学教育は

## どうなるの？

筑波大学による  
小中高校生向け科学教育



筑波大学GFEESTコーディネータ

尾嶋 好美

### ■ 変わらざるを得ない「教育」

デジタルサイエンスの急激な発展により、「仕事」「働き方」にも変化が起こっています。決まりきった仕事は、AIによる無人化が予想されています。手の中にスマートフォンがあれば、いつでもどこでも全世界の情報にアクセスできるので、「誰でも知っている知識・情報」には価値がなくなっていくます。

それに伴い、「教育」も変わらざるを得なくなっています。アメリカ教育省は「複雑化した世界においては、情報を理解し、問題を解決していくためにはSTEM（Science（科学）、Technology（技術）、engineering（工学）、Math（数学）の力をこけることが必須である」とし、初等中等教育でのSTEM教育を強化しています。中国は、2030年までにイノベティブな国の先頭に立つことを目指すとしており、「初等中等教育+STEM教育」の市場は2020年に3・36兆円（52兆円）にも及ぶと予想されています。

日本においても、教育が変わりつつあります。2020年度から小学校、2021年度から中学校、2022年度から高等学校で新しい学習指導要領がスタートします。これまでスーパーサイエンスハイスクール（SSH）などでは、生徒がそれぞれ課題を設定して、研究を行う「課題研究」が行われてきました。新しい指導要領では「知の創出をもたらし、できる人材の育成を目指す」と、そのための基礎的な資質・能力を身に付けるとともに、数学や理科に関する横断的なテーマに徹底的に向



尾嶋好美氏

### ■ 筑波大学が行ってきた科学教育

1965年のノーベル物理学賞受賞者で東京教育大学の学長も務められた朝永振一郎博士は次のように色紙に記されています。

ふしぎだと思うこと  
これが科学の芽です  
よく観察してたしかめ  
そして考えること  
これが科学の茎です  
そうして最後に花がとける  
これが科学の花です

朝永先生の功績を称えるとともに、小・中・高校生の自然や科学への関心と芽を育てるために、筑波大学では、2006年から「科学の芽」賞という科学コンクールを行っています。身の回りの自然現象の中で「ふしぎだな」と思ったことを、実験や観察を通してまとめたものを、筑波大学の教員等が審査し、表彰しています。

芽が出て、健やかに育つためには、土壌も大切です。そこで、筑波大学では2008年度に国立研究開発法人・科学技術振興機構（以下「JST」と略記）の「未来の科学者養成講座」に採択されて以降、継続的に小・中・高校生を対象にした科学教育を行ってきました。

2014年度には、JSTがローバルに活躍していく科学技術人材を育成することを目的とした「グローバルサイエンスキャンパス」に採択され、「未来を創る科学技

き合い考え抜く力を身に付ける必要がある」として、高等学校に「理数探究」という教科が新設されることになりました。

術人材育成プログラム 筑波大学GFEEST (Global Future Expert in Science and Technology)」として、主に高校生を対象に科学教育プログラムを実施しています。また、2017年度からは、JST「ジュニアドクター育成塾」に採択され、「つくばSKIPPアカデミー（Science Kids Inspiration Program）」も実施しています。

### ■ 筑波大学GFEESTとは

筑波大学GFEEST（以下「GFEEST」と略記）は、確固たる科学技術の基盤を持ち、未来を切り拓いていくグローバルリーダーの育成を図るプログラムです。生徒それぞれの資質・目標に合わせるため、個人研究を行っている生徒を対象としたスーパーサイエンスコース（SSコース）と、科学技術オリムピックに挑戦している生徒を対象にした科学トップリーダーコース（TLコース）の二つのコースにわかれています。受講生には、それぞれのテーマや関心に合わせ、筑波大学教員1名と大学院生1名が専属で配置される手厚いサポート体制をとっています。

また2か月に1度、全受講生を対象に、プレゼンテーションスキルや、論理的な文章の書き方を学ぶ講座や最先端の科学について大学教員が講義する「共通プログラム」を実施してきました。夏休みと冬休みには、泊りがけで実習を行うサイエンスキャンプを実施し、受講生たちの横のつながりを醸成しています。

GFEESTは、高校2年で英語の学術論文の筆頭著者になる、国際科学コンテストで入賞するなど非常に優れた成果を上げる受講生を多数輩出しています。また、海外トップ大学に進学した受講生も多く、今後、GFEEST修了生としての繋がりをいかして、様々な分野で活躍していくことが期待されます。

### ■ つくばSKIPPアカデミーとは

つくばSKIPPアカデミー（以下「SKIPP」と略記）は、小学校5年生から中学校3年生までを対象にしたプログラムです。多くの国や民間の研究機関が集まる「サ



白川博士による化学実習

イェンスシティつくば」の地域性を生かして、様々な分野の研究機関で実習を行っています。秋には、2000年ノーベル化学賞受賞者の白川英樹筑波大学名誉教授に自ら指導いただく化学科学実験教室も行っていきます。

小中学生が研究者と直接触れ合う機会は、なかなかありません。物理、化学、生物、地学、情報等、幅広い分野の実習を行うSKIPのプログラムは非常に人気が高く、毎年多くの小中学生の応募があります。

SKIPでは、全受講生が夏休みに個人研究を行っています。

学校の宿題で「自由研究」が出て、そのやり方を教えてもらうことはほとんどありません。一人で研究を進めるのは大変であり、自分が本当にやりたいと思ったテーマでなければ、やり通すことは困難です。そのためSKIPでは、研究テーマや実験方法などを、筆者や筑波大学の学生と一緒に考えます。

「あんなに苦労して自由研究をしたのに、学校に出しても『よくできました』のシールでおしまいがっかりした」という声もよく聞きます。一生懸命頑張ったことを正当に評価されなければモチベーションも続きませんし、苦労した思いだけが残ってしまう、研究自体を嫌いになってしまふ可能性もあります。実際に「夏休みの宿題で一番大変で、嫌だったのは自由研究」という話も聞きます。そうになってしまうと科学への関心も薄れてしまいます。

SKIPでは、研究結果を模造紙一枚にまとめ、大学教員と大学院生の前で発表する「個人研究発表会」を実施し、研究に対するコメントやアドバイスをうけるようにしています。

## ■一生付き合える仲間との出会いの場

毎年GFEST受講生から「学校では、研究の話をすると『へんなヤツ』だと言われる」「生物の話をしたいのに誰も相手にしてくれない」「学校の先生には、研究よりも受験勉強をしろと言われる」という声が聞かれます。周りに仲間がいないと「研究をしている自分は変なのか?」と孤立感をいだくことになり、研究へのモチベーションも下がってしまいます。GFESTでは、長期休みに合宿型の実習を行っています。毎晩遅くまで交流を続けます。「初めて自分の話が通じた」「研究についていろいろなアドバイスをもらえた」と、嬉しそうに話す受講生がこれまで何人もいました。

科学技術オリンピックに挑戦しているTLコースの受講生たちも同じです。実習の休み時間に、受講生たちが突然ホワイトボードに数式を書き出し、議論を始めたことがありました。「学校ではここまでのレベルで話せる人がいない」「すごい人たちと一緒にいるので、科学技術オリンピックに出場するのが当たり前という気になってくる」ということで、科学技術オリンピックの国内本選、そして国際大会に出場する受講生も多くなりました。

GFESTが「自分が興味のあることを、同じレベルで語り合うことで、お互いに切磋琢磨し、生涯にわたって付き合っていく仲間を見つけていく」という場になることを目指していましたので、実際にそうなっていることを非常に嬉しく思っています。

## ■これからの科学教育について

前述したように、日本でも教育のあり方が変わります。確かに、将来どのような仕事に就くにせよ、「考え抜く力」を育成することは必要であり、そのためには高校新科目の「理数探究」は非常に有効だと考えます。世界各国でも、「プロジェクト学習」や「個人研究」に力を入れてい

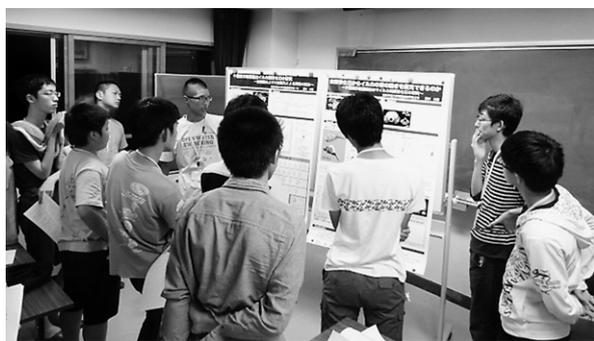
るのもそのためでしょう。

個人研究を実施するためには、生徒一人ひとりに向き合うきめ細やかなサポートが必要になります。SKIPの個人研究では、受講生一人ひとりと1回1時間の面談を少なくとも2回行っています。小中学生と高校生という違いはありますが、「理数探究」を実施するのであれば、同じようなサポートは必要になると考えます。

しかしながら、日本の高校では、多くの生徒を一人の先生が見なくてはけません。また、理数探究を担当するのは「理科もしくは数学の高校教員」となっています。が、ご自身が研究活動をしたことがない先生も多く、一人ひとりがテーマを設定して行う「課題研究」を指導できるかどうかは疑問です。

そのため、大学院生等を講師として派遣する、高校の先生たちに課題研究の支援方法を指導する等、大学が初等中等教育に積極的にかかわることが必要になってくるかと考えています。

筑波大学は、これまで10年以上にわたり、外部資金を活用した小・中・高校生の科学教育にも力を入れてきました。一貫して「個に対する支援」を行ってきたこと、



筑波大学GFESTの研究発表

教員の協力が得やすいこと、附属高校があること、つくば地域の様々な研究機関と連携していること、そして、なにより教育大学を礎としていることから、日本の科学教育の変革を担うのは筑波大学であり、日本の科学教育は筑波大学から変わっていくと考えています。同窓生の皆様には、是非、ご協力をいただければ幸いです。

# 「OB・OGキャリアカフェ」

茗溪会、筑波大学共催の

「第2回就活相談会」

## 「今回も学生が主役」

2019年10月16日(水)午後0時15分から夕方4時まで、筑波大学の学生会館1階の「レストラン筑波デミ」において、全学年の学生を対象にして第2回目の就職相談会が開かれました。

これは、茗溪創基150年記念事業の一つとして行われたものです。前回は、6月14日(金)午後1時から5時半まで、筑波大学学生会館ホールで行いましたが、できるだけ授業のない時間帯で、学生たちも参加しやすい日程で開催してほしいという要望に応える形で、水曜日の午後で開催しました。また、気軽に参加しやすいように、飲み物を飲みながら先輩と語らえるように、カフェの形をとって、テーブルに向かいあって楽しく相談ができるようにしました。

今回は、筑波大学の学生の就職活動の支援を具体的にしようと、「茗溪・筑波産業人倶楽部(以下、産業人倶楽部)」が主体となって、初めての試みとして「第1回就活相談会」が開かれました。今回は、茗溪会が主催となっておりませんが、筑波大学の学生部就職課も共催ということで、茗溪会と筑波大学が連携・協力しながら開催したものです。

今号では、今回の概要、そして参加した先輩の声や先輩の所属する企業名、さらに当日回収できた学生の参加者のアンケート結果等について報告します。

### ※第一部 OB・OG交流会

#### 「前向きに自分も楽しもう」

開会の2時間前からこの会に参加する先輩たちは会場に集合し、打合せや意見交換会をしました。ここでは、今後もこの就職相談会を年2回のペースで開催すること

そして大学と共催とすること、「前向きに、かつ自分も楽しもう」と、学生と直接対面して話を交換し合うことが話し合われました。さらに、今回は、企業訪問するにはそれなりの服装とメイクが必須だろうということで、DHとアオキにも協力してもらいました。



天野正人事務局長

### ※第二部 学生交流会「アブース回ろつ」

正午過ぎに始まったメインの「学生との交流会」では、まず全体会の形をとって、産業人倶楽部の河本武委員長から心構えなどの「助言」があった後、産業人倶楽部の

運営委員でもある谷出正直さんと「M1グランプリ」にも挑戦したという成瀬拓也さんとの楽しい掛け合いを披露しながら「就活のアドバイス」がありました。

そして、参加者全員の記念写真を撮った後、各業界先輩と学生たちの具体的な面談である「企業別交流会」が行われました。交流会では、それぞれ20分ずつ7クールにわたって、総数25のブースで先輩と学生が直接向き合っただけで、休憩を挟んでほぼ3時間の間に、学生はそれぞれ7業種の先輩と話すことができたわけです。途中から留学生の方々も参加してきて、午後4時まで各テーブルで楽しそうな話し声が聞こえていました。

参加者をより多くし、有効な相談会にするためには、学生のニーズをどうきちんと捉え、どのような内容のものとするのがいいのか、参加業種はこれでもいいのか等、様々な課題はあるでしょうが、先輩方がこのように親身になって学生の相談に乗っている姿は、そのような経験のない者には、羨ましく感じた時間でした。

#### ◆河本武(産業人倶楽部委員長)の「助言」

「考え方がすべてを決する」

「今日集まった人は、「先んずれば人を制す」というように、意識が高い人たちなのできつと先々リーダーとなるべき資質を持っている人たちであると思います。就職は自分のためだが、その仕事は世の中のためになるのか、人のためになるのが大切で、「利他」を常に考えてほしい。そして、アホのように見えるが実は賢い人である「アホカシ」の人になってほしい。さらに、自分の利益ばかりを考えるのではなく、自分も他人も世間も良しの「三方良し」を考えて生きてほしいと思っています。」

#### ◆谷出正直(産業人倶楽部運営委員)の「就活アドバイス」

「どう生きるか」を考え、話そう

「本会は、「どう生きるか」について、皆さんの少し前に苦闘してきた先輩の話を聞く会です。先輩には、仕事の選び方やどういっつかけてその仕事に就いたのかな



成瀬拓也氏・谷出正直氏

ど、直接聞いてみてください。」

◆成瀬拓也(ウイルフォワード経営者)  
——諦めず行動しよう——

「絶対会うことできないと思うような人にも、工夫すれば直接会うことができます。そして、そこから人生を大きく変えるような新たな展開が生まれます。とにかく行動が大事です。」

★相談に参加してくれた先輩の所属一覧

大塚製薬、ワコール、コーセー、日立建機、三井住友海上火災保険、NHK、日本総合研究所、ヤフー、ニトリ、東京ドームホテル、三越伊勢丹ビジネス・サポート、デロイトトーマツコンサルティング、浜銀総合研究所、ウイルフォワード、茨城県庁、茨城県立高校など。

※参加者のアンケート結果(53人分)から

- ①参加者は…学部3年と大学院1年生が多い。(学部33(3年22)、大学院17(1年16))
  - ②本会を知ったのは…メールと掲示が多い。(メール19、掲示18、HP10)
  - ③本会の印象は…好印象100%。(非常によかった30、よかった23)
  - ④役立ったことは…就活の進め方27、業界の概要22、就活活動の概要21、就活準備17
  - ⑤進路の予定は…就職58(企業44、公務員8、教員6)、進学10。
  - ⑥次回の希望は…就職後の概要(業界、働き方) 25、就職活動の概要(就職環境、スケジュール) 20
- ※④⑤⑥は複数回答

※参加者のアンケート結果(自由記述)

- ③本会に参加しての感想としては、  
「希望の企業のOBがいて、参考になった。」「同じ学類の先輩がいたので、話しやすかった。」「オープンな雰囲気、気軽に就活について相談できた。」「選択肢が広がったり、今後何をすべきかを考えるきっかけになった。」「就活をする上や、仕事をする上で重視すべきことが分かった。」などと、十分な意義が感じられたようです。
- ④相談して役立ったことは、  
「それぞれの先輩がどうやってその業界を見つけ選ん



河本武委員長

だのかが分かった。」「先輩方のその職種を選んだ理由やこの時期にやるべきことが聞けた。」「具体的なその会社での働き方を聞くことができたので参考になった。」と、先輩方の職業選択の様子や会社での実際の働きぶりなどについて具体的に聞けたようです。

⑦その他の意見としては、  
「メイクが得意ではなかったのですが、DHCのメイク講座がとてむためになりました。」「授業のためほとんど参加できなかったのですが、次回は土日祝日に開いてほしい。」「もっと頻繁に開催してくれるとうれしいです。」と大きな期待が寄せられました。

(文：茗溪会理事 早川源二)

kana, manga, ninja, tosa のような借用日本語、Alabama, California, Columbia, Dakota, Florida, Georgia, Indiana, Louisiana, Montana, Nevada, Oklahoma, Virginia などの北米の地名の語末の〈a〉も規則的に〔a〕に対応する。それでは、語末の〈a〉(=〔a〕)はなぜ消失して黙字とならないのか、「黙字」はなぜ語末の〈e〉に限られるのかという疑問が出てくる。

この新たな疑問を解く鍵は語源の情報から得られる。すなわち、acacia (1543), antenna (a 1478), banana (1563), camera (1708), data (1646), soda (1558) のような〈a〉で終わる語の末尾の発音、英語として用いられ始めた年代、および語源を調べた結果、i) 語末の〈a〉はすべて〔a〕に対応し、黙字とはならない、ii) 英語として用いられ始めた年代は語末の〈e〉が消失し始めていた中英語後期以降である、iii) 語源はラテン語またはラテン語から派生したロマンス諸語に限られることがわかった。これらの借用語の末尾の〈a〉は「完全母音」(full vowels)の〔a〕であるが、英語の語末では無強勢の完全母音は許容されず、〔a〕として受け入れられた。在来語には語末が〈a〉となる語は存在しないので、このような語は綴り字から外来語とわかるので、原語のまま借用され、語尾の消失には至らなかったと思われる。ちなみに、geisha (1891), hakama (1859), kana (1727), manga (?), ninja (?), tosa (1945) などの借用日本語の語末の〈a〉も同様に〔a〕に変えられている。

#### 4 〈y〉の音価と子音への転用

次に、字母〈y〉の場合、語頭では定冠詞の the の発音と不定冠詞の an ~ a の区別 (the yard ~ a yard) から、〈y〉は子音とみなせる。さらに、〈y〉は yard (< OE gearð), year (< OE gear), yolk (< OE geolca) のように子音の〔g〕に由来するので、語源上も子音である。一方、語末の〈y〉は、body [bodi] (< OE bodig), heavy [hevi] (< hefig), many [meni] (< OE manig) などの音声表記では〔i〕であるが、語源上は子音の〈g〉(=〔g〕)である。ちなみに、このような語末の〈y〉は、音の機能を重視する音韻論の立場では子音(= /j/)とみなされる。〈y〉は bycgan 'to buy', cycene 'kitchen', hyll 'hill', lytel 'litttle', ynce 'inch' のように古英語では円唇母音の〔y〕を表わしたが、現在は「わたり音」(glide)の/j/または〔y〕以外の一部の母音に転用され、黙字にはならなかった。

#### 5 〈gh〉の黙字化の有無

語末の子音の黙字化として語末の〈gh〉を取り上げた。この〈gh〉は dough (< OE dag), high (< OE he(a)h), rough (< OE ruh), tough (< OE toh) のように、古英語では〈g〉か〈h〉と綴られ、〔g〕か〔x〕と発音され、中英語ではフランス語式に〈gh〉と綴られた。〔x〕は次第に廃れ、enough, laugh, rough のように〔f〕に切り替えられるか、dough [dou] (= /dow/), high [hai] (= /haj/), plough, thigh, though のように〈gh〉の直前の母音がわたり音の/j, w/を含む場合、〈gh〉は黙字化し、その他の場合は〔f〕となった。

## II 日本語の綴り字と黙字化

### 1 日本語の表記の特徴

日本語の表記は音節単位であり、母音字の〈あ、い、う、え、お〉以外は「子音+母音」が1文字に対応する。「か行」から「わ行」までの文字に「黙字」が生じるとすれば、英語とは全く異なる特徴が見られるはずである。

### 2 日本語の「わ行」の発音と表記

英語では、日本語の「わ行」に対応する音節〈wa, wi, wu, we, wo〉は古英語からすべて用いられている。日本語の「わ行」の3番目の〔wu〕に対応する文字は奈良時代の文献にはない。それゆえ、〔wu〕はもともと存在しなかったか、奈良時代にはすでに消失していたかのいずれかである。しかし、かつての「う」が現在と同様に口をすぼめて発音しない「非円唇母音」であったなら、円唇性の強い〈w〉(=〔w〕)の直後に非円唇の〔u〕を発音するのはむずかしいので、〔wu〕は最初から存在せず、それゆえ、表記する必要はなかったと考えられる。

その他の「わ行」の文字に生じる問題は、〈わ〉は広汎的だが、〈を〉は助詞に限られ、〈ゐ〉と〈ゑ〉は消滅寸前ということにある。上代から用いられてきた〈を〉は、現在は〔w〕が消失し、「をうし(牡牛) > おうし、をがわ(小川) > おがわ、をけ(桶) > おけ」のように〈お〉に切り替えられている。「あ行」以外の「か行」から「わ行」まではすべて子音+母音が1文字で表わされているが、音変化は「よもぎ」→「よごみ」(yomogi > yogomi) のようにあくまでも子音と母音は連動せず、別個に作用する。

〈ゐ〉と〈ゑ〉も〈を〉と同様に、「ゐのしし→いのしし、ゐなか→いなか、ゑかき→えかき、ゑくぼ→えくぼ」のように、書記上は〈ゐ〉→〈い〉、〈ゑ〉→〈え〉という入れ替えが生じているが、音声的には〔wi〕 > 〔i〕, 〔we〕 > 〔e〕という「頭子音」の〔w〕だけの消失である。

最後に、〈わ〉だけが現在も「頭子音」の〔w〕を完全に維持している理由は、〈わか〉→〈あか〉、〈わかき〉→〈あき〉、〈わく〉→〈あく〉、〈わけ〉→〈あけ〉、〈わけ〉・〈あげ〉、〈わご〉・〈あご〉のように、〈わ〉が〈あ〉に切り替えられると、結果として生じる語は既存の語と競合し、しかも、〔w + a〕は他の音連続〔w + i〕, 〔w + e〕, 〔w + o〕より発音しやすく、聴覚的にも明瞭であるので、〔w〕を維持する力が働いたと考えられる。なお、「や行」の記述は紙面の都合で割愛した。

### むすび

英語は母音字にも子音字にも「黙字化」が生じる。しかし、不要となった字母は新たな役割を付与されて生き残っている。一方、音節文字を用いる日本語では、消失するのは頭子音の〔w, j〕のみであり、それゆえ、英語の語末の〈e〉や〈gh〉のような黙字化は生じない。

## 藤原教授の英語のはなし 第18弾

## 「単語の秘密に挑む！」

講師：藤原保明（筑波大学・聖徳大学名誉教授）



## はじめに

今回は、普段見慣れているのに気づかない英語と日本語の単語の綴り字と発音に込められた秘密を探ってみた。

## I 英語の綴り字と黙字化

## 1 語末の〈e〉の用法

語末の〈e〉が発音されず「黙字」となる live, age, defence, cheese, little, take, die, bee のような単語は英語にはたくさんある。アルファベット（以下、字母）は発せられた瞬間に消えてなくなる「言語音」（speech sounds）を保存し、あとで参照できるように考案された。それゆえ、発音されない語末の〈e〉は字母本来の目的に反するため、このような黙字には特別な理由があるに違いない。ちなみに、arrive, bathe, came, date, elite, face, gate, home, kite, line, mine, note のように〈e〉で終わる語の強勢母音は二重母音か長母音が多いので、〈e〉には先行母音が長いことを示す機能があるとみなす音声学者もいる。実際、bit ~ bite, cut ~ cute, dot ~ dote, fat ~ fate, hat ~ hate, kit ~ kite, mat ~ mate のように、強勢短母音を含む語に〈e〉を添加すると、その短母音に対応する二重母音か長母音を持つ語が形成される。しかし、その反面、語末の〈e〉に短母音が先行する above, come, done, dove, give, have, love, one, some のような語も生じるので、黙字の〈e〉を付加する根拠は明確ではない。

このように、語末の黙字の〈e〉の根拠を共時的に探るのは難しいので、デンマークの言語学者 Otto Jespersen (1909) が指摘した次の8つの通時的根拠を参照した。

- ① 子音字の〈v〉(=[v])は〈u〉と書かれこともあるので、〈u〉が母音ではなく子音であることを示す (have,

'have', liue 'live', loue 'love', gauē 'gave')。

- ② 〈g〉が「ガ行」の[g]ではなく「ジャ行」の子音であることを示す (age, cage, page, stage, wage)。
- ③ 語末の〈c〉が[k]ではなくフランス語式に[s]であることを示す (mice, defence)。
- ④ 語末の〈s〉が屈折語尾ではないことを示す (dose, cheese, nose, rise, rose, tease)。
- ⑤ 語末の〈l〉と〈r〉が音節であることを示す (able, little, table, acre, centre)。
- ⑥ 強勢母音が長い場合、直後の〈e〉を残すか、新たに〈e〉を添加した (bite, cute, rode, take, wide)。ただし、短い強勢母音の場合にも〈e〉を添加することがあった (come, done, some)。
- ⑦ as, at, in, of, on, to などの機能語と異なり、内容語には〈e〉を追加して2文字語を避けた (die, due, dye, foe, hue, lie, tie, toe)。
- ⑧ 同一綴り字を避ける (bee ~ be, doe ~ do, toe ~ to)。

## 2 語末の〈e〉の消失

Jespersen は黙字の〈e〉の付加に8種類の用法を認めているが、先行母音の長さを示すのは⑥の1つにすぎない。語末の〈e〉が黙字となる前提は〈e〉が発音されないことである。在来の英語の強勢は「語幹」の最初の音節に置かれたので、後続の語末の無強勢母音は弱化しやすかった。10世紀以降、ヴァイキングがイギリス北東部に定住し始めると、異民族間の情報伝達を円滑にするために、両言語の異なる語尾を互いに強調せず、不明瞭に発音することが好まれたのであろう、語尾はあいまいに発音され、最終的に消失した。

具体的には、[a, e, u]と発音されていた古英語(= OE)の語尾〈a, e, u〉は10世紀頃から弱化して「あいまい母音」(本稿では[a]と表記する)となり、綴り字も〈e〉に統一された。中英語(= ME)後期に[a]が消失すると、綴り字の〈e〉も不要となり、やがて削除された(OE cirice > ME chiriche > church, OE mona [mo : na] > ME moone [mo : na] > moon, OE sunu [sunu] > ME sone [suna] > son)。

注目すべきことは、今から600年も前の語末の〈e〉(=[a])の消失は忘れ去られたのではなく、現在の英語の母語話者の頭の中に「語末の〈e〉はあいまい母音[a]に対応しない」という規則として内在化していると思われることである。その証拠に、在来の英語はもとより、比較的最近日本語から借用された anime, edamame, karaoke, karate, netsuke, sake などの語の末尾の〈e〉は[ei]または[i]となるが、[a]には対応しない。ちなみに、語末の〈e〉が[ei]または[i]と発音されるのは、借用フランス語の綴り字と発音の影響である。

## 3 語末の〈a〉の音価

語末の〈e〉は[a]に対応しなくなったが、〈a〉で終わる acacia, antenna, banana, camera, data, soda のような語では、〈a〉は規則的に[a]に対応する。さらに、geisha, hakama,

# 茗溪・東西南北

## 平成30年度茗溪会 福井県支部総会 報告

平成31年2月2日(土)午後4時半より、大野市の扇谷旅館にて、22名の会員のご出席をいただき、平成30年度茗溪会福井県支部総会・親睦会を開催しました。

総会では、支部長挨拶、会計報告、協議事項審議の後、これからの総会開催場所および事務局担当の輪番制について確認を行いました。

この年度は、前年2月の豪雪に続いて夏は猛暑に見舞われるという大変な天候の一年でしたが、締めくくりとできる当日は、雪も少なく穏やかな天候の下で行うことができました。約300基の雪見灯ろうが立ち並び、越前大野城をバックに「冬花火」が打ち上がる大野の冬の一大イベント「結の故郷 越前おおの冬物語」が開催される中、滞りなく無事終えることができました。



本県では、9月下旬から10月中旬にかけて、第73回国民体育大会「福井しあわせ元気国体2018」、第18回全国障害者スポーツ大会「福井しあわせ元気大会2018」が開催されました。前回の福井国体以来50年ぶりに天皇杯を獲得し、初めて皇后杯も獲得するという素晴らしい成果を上げることができました。

この大会では、筑波大関係者でメンバー構成された、剣道の成年女子が初優勝を飾るなど、県内の沢山の筑波大関係者が、選手や監督・運営役員関係者などとして活躍されており、皆で喜びを分かち合うことができました。



近年の会員数・総会参加者数の減少や会運営の活性化を図るため、平成25年より県内を4ブロックに分け、総会をブロックの持ち回りで開催するようになりました。今年度は2巡目の坂井・奥越ブロックでの開催となります。

このシステム導入により、一時期より会員数や総会参加者が増えてきたようですが、まだまだ課題が残っているという状態です。教育関係者の会員が主体ではありませんが、他の業種の会員も増えてきていることから、一層多くの皆様方に参加いただいて、会員同士のネットワークをさらに広げ交流を深められることを願い、最後に皆で宣揚歌を斉唱して会を閉じました。

## 茗溪会山梨支部「教養講演会」

茗溪会山梨支部では、令和元年11月30日に、毎年実施している「教養講演会」を行いました。今年度は、本支部の副支部長であり、山梨県立大学教授である澁谷彰久先生に講師をお務めいただきました。演題は「東京高師のいだてん達と箱根駅伝」で、東京オリンピックを目前に控え、NHK大河ドラマでも話題になっている「いだてん」がテーマとあって、聴衆の関心も大変高いものでした。

講演では、澁谷先生の祖父である澁谷寿光氏が陸上競技の発展のために尽力された様子を話していただきました。

寿光氏は神奈川県松田町出身で、県立第二中学校から東京高等師範学校に入学しました。入学後は徒歩部で金栗四三らの後輩として文武両道で活躍し、嘉納治五郎校長の指示で夏の練習会の主事として様々な準備をするなど力を尽くしました。

卒業後は教員として母校の小田原中学校（現在の小田原高校）に赴任し、徒歩部で多くの生徒に長距離の指導をしました。

大正8年に関東学生陸上競技連盟が設立され、学生主体で行われる駅伝競技の実施が計画されました。その際に地理に明るい寿光氏がコースの調査を行い、箱根のコースが設定されるに至りました。それにより、大正9年には早稲田・慶應・明治・東京高師での駅伝が実施され、箱根駅伝が始まりました。

その後も指導者・教育者として陸上競技の技術や国際ルールの研究を進めました。昭和7年のロサンゼルスオリンピックでは役員を、昭和11年のベルリンオリンピックでは選手団団長を務めました。

昭和39年の東京オリンピックでは、マラソンコースを検討するとともに、陸上競技審判団団長として審判員養成を全国規模で行うなど数々の苦勞を重ねられました。写真判定だけでなく人の目による判定を行って、正確な判定に努めました。また、審判員としての技術だけでなく、歩き方などに現れる人間性にもこだわりを持って指導にあたっていました。

講演の中では、寿光氏の遺品がダンボール五十箱にも上ったことや、NHKの職員の方がそれらを資料として調べたことなどのエピソードもお話いただきました。また、東京オリンピックの判定写真や審判員のハンドブックの実物も見せていただきました。審判技術の向上を目指し、日本の陸上競技を支えた寿光氏の功績を知るとともに、実直な人柄を感じることができ、学ぶことの多い講演会となりました。



# 第1回 茗溪会 中国・四国ブロック代表者会議

中国・四国ブロックでは、11月9日土曜日17時から、当ブロックでは初めての試みとなる、「茗溪会中国・四国ブロック代表者会議」を、香川県高松市のJ Rホテルクレメント高松（J R高松駅に隣接）で開催しました。

茗溪会本部事務局からは、矢野正人事務局長（常務理事）をお招きし、岡山、広島、徳島、愛媛、香川の全9支部中の5支部のブロック代表が会して、主に当ブロックにおける茗溪産業人倶楽部の発足を見据えた協議を行いました。

## 1 開会にあたって

冒頭、矢野事務局長からのごあいさつをいただきました。この中で、これまで茗溪会は教育界の卒業生で組織を支えてきたが、現在、筑波大学の卒業生の数%しか教育界に進まない状況にある中、今後の茗溪会のあり方を考えると、産業界に進んだ人材を会の活動に巻き込んでいくことが急務である旨のお話をいただきました。

## 2 各組織の現況について

次いで、第1回の会議でもありますので、各組織の現況を各代表に紹介していただきました。

○香川では年に一度会合を開いています。体育教員の縦・横の関係が軸となっている傾向はありますが、本日もこの後、高師を卒業された大先輩から、筑波大を卒業した若者まで、約50名ほどの会員が集い、そこにこの代表者会議にご出席いただいた皆様にもご同席いただくことになっています。

○徳島では、かつては教員を中心として運営していましたが、10年くらい前から、教員プラス県関係の同窓生を集めることから活性化の努力をしました。その後、さらに大塚製薬など県内の企業にもその輪を広げ、現在産業界の同窓生と一緒に活動を行っています。各企

業に中心となって声掛けをしていただけの人材を置いて運営しています。年2回、春の総会と1月の新年会を実施しており、1月には「同窓談話」としてOBの先輩からお話をいただいています。

○岡山でもかつては、茗溪会が体育の教員を中心によく集まっていたのですが、当時の支部長さんのご意見で、一般企業の同窓生にも声をかけるようになりました。現在、総会に集まる約30人のうち何人かは企業の卒業生も参加しています。数年前に筑波大の会を開いたところ40～50人が集まったこともあります。

○広島支部は今、教育大の出身者しか集まらず、とにかく筑波大出身者が捉まらないことが悩みです。教員のなり手も少なく、この1～2年で大胆な代替わりも検討しないとイケないだろうと支部長とも話をしていくところです。

○愛媛では、毎年7月初旬に総会を開いています。今年も30名ほどで開催しました。うち民間の方は10名ほどです。教育大と筑波大の割合は2・1。比較的若い筑波の卒業生も参加してくれています。より多くの参加を促すため、総会の日程の変更なども検討しています。また、茗溪会と別に『筑波の会』があり、こちらの会の方には参加するという方もいます。なんとか教員以外にも活動を広げていきたいと考えています。

各組織それぞれの状況を忌憚なくお話いただき、共通の課題を確認しあえたり、参考となる取組みもご紹介いただくなど、顔を合わせて話し合いをすることの有効性を感じることができました。

## 3 協議（茗溪産業人倶楽部の発足について）

矢野事務局長より、当ブロックでの茗溪産業人倶楽部の発足を仕掛けるために、まず、産業人もよく参加している県組織の会合に、中四の他の県からも（できれば産業人OB）何人かを集め、小規模でもブロックの産業人の会を持ってみてはどうか、という提案がありました。

これに対して、まず、各県において産業人のOBの存在の情報が希薄なこと。また、地方では大都市圏と異な

り実際に参加するにあたっての旅費、宿泊費等の経費や時間の負担が大きいことといった課題が指摘されました。一方で、産業人の繋がりは、教員と違い県域にとどまることがないので、広域のネットワークを作ることが意味を持つてくること。また案ずるよりも、若い世代（筑波卒）の産業人を少人数でも集めて、まずお膳立てをすれば、あとは若い世代なりの人脈や手法（SNSなど）を用いて、自然と動き出すものであることや、筑波世代の産業人に託していくことで、各組織の世代交代の悩みも解決する可能性もあるのでは、といった意見もありました。

残念ながら、時間切れとなり協議は持越しとなりましたが、各地域組織において茗溪会のこれからを考えるよい契機になったと感じました。

## 4 ブロック会のあとで

ブロック代表者会議出席の代表の皆さまには、引き続き同じホテル内の別会場の香川茗溪会の総会にも参席いただきました。いつもの香川のメンバーに加え、各県の先生方にも加わっていたいただき、中にはまさにこの機会がなければ、叶わなかったような同級生どうしの再会の場面もあり、例年以上の盛会となりました。最後に香川茗溪会恒例の宣揚歌の大合唱で締めくくることができ、同窓の一体感を存分に感じる事ができました。香川茗溪会より、矢野事務局長をはじめとして、ご参集いただいた各ブロック代表の先生方に大変感謝申し上げます。



（文責 香川茗溪会 山本主税）

●クラブ活動等のOB・OGの会合等

NO	同窓組織、会合、諸活動	開催年月日	開催場所	参加数	掲載号
8	35桐陸会同期の傘寿懇親会	2017/11/8	筑波大学会館	13	1096
9	サンゴ会	2017/9/12	筑波大学館山研修所(旧北条寮)	16	1095
10	バレーボール部OB会中国支部			25	1091
11	ヨット部5～7期(S41～43年入学)とその応援グループ	2017/1/28	麗郷渋谷店	13	1094
12	桐花会(東京教育大学空手部・筑波大学空手道部OB会)	2017/9/16	茗溪会館	24	1095
13	高翔会(茗溪ソフトテニスOB・OG会)	2018/11/23	つくば山水亭	107	1100
14	漕艇部昭和59年入学同期会	2018/9/22	筑波山ホテル青木屋	14	1099
15	筑波大学1期生柔道部同期会	2017/12/16	徳島市	12	1097
16	筑波大学バレーボール部OB・OG会	2017/1/28	茗溪会館	61	1094
17	筑波大学応援団(創団30周年記念)	2017/7/16	茗溪会館	100	1096
18	筑波大学混声合唱団	2009/11/22	茗溪会館	50	1065
19	筑波大学女子ハンドボール部(創部50周年記念)	2018/2/17	オークラフロンティアつくば	109	1098
20	筑波大学軟式野球部OB会30周年大会	2018/11/10	茗溪会館	150	1100
21	筑波大学野生動物研究会	2017/11/14	日光湯ノ湖	25	1096
22	東京教育大学・筑波大学体育会ヨット部	2012/6/2	天王洲アイルクリスタルヨットクラブ レディークリスタル号	125	1074
23	東京教育大学アーチェリー部OB会	2015/12/17	聘珍樓横浜本店	9	1089
24	東京教育大学バレーボール部昭和42～45年卒4学年合同同窓会	2016/9/1	横浜万葉倶楽部	15	1092
25	東京教育大学軽音楽サークルOB会	2016/2/27	渋谷「麗郷」	8	1091
26	東京教育大学体育学部昭和34年卒業 女性の会	2018/10/26	渋谷エクセルホテル東急	12	1100
27	東京教育大学体育学部昭和35年卒バレーボール部同期の集い	2018/6/25	浜名湖かんざんじ温泉「時わすれ開華亭」	12	1099
28	東京教育大学体育学部昭和35年卒業女子の集い	2017/3/23	新宿銀座アスター	14	1094
29	東京教育大学茶道部昭和42年入学同期会	2016/7/15	高輪和彊館	10	1091
30	茗溪ヨットクラブ	2017/7/8	茗溪会館	70	1096
31	茗石会の集い	2011/12/6	いずみ囲碁ジャパン	13	1073
32	茗柏会	2017/4/28	茗溪会館	31	1094
33	茗友サッカークラブ	2016/7/10	都内ホテル	160	1091

\*今回は、季刊誌『茗溪』(1061-1100号、平成20-30年)の「桐の葉のつどい」に掲載されたものを一覧にしています。

\*今回紹介させていただいた以外に、同窓組織や会合、諸活動などをご存じでしたら、以下にお知らせください。

E-mail adress : peer@meikei.or.jp

\*また、組織や会合や諸活動などが連絡を取り合って、運営等のヒントにしたり、共同で開催することもあるかもしれません。その窓口にも上記アドレスをご活用ください。



No.17 筑波大学応援団



No.11 ヨット部



No.21 野生動物研究会

今年度定時総会終了後、就任間もない矢野事務局長から、「同窓生たちの交流はどのような形が考えられるか」と問いかけられました。《クラブやサークルのOB会》《学科、学類等の同期会》の他に、《地縁によるコミュニティ》や茗溪マスコミ会のような《業界のコミュニティ》等が思い当たりましたが、季刊誌『茗溪』の記事が参考になるかと思ひ、とりあえず過去10年間(106号～1100号)に掲載された「桐の葉のつどい」やその他の記事で紹介されている会合や活動を拾い出してみました。

こうして作成されたデータベースは、記事総数が377件(重複を差し引くと239)の会合を数えることができました。会合の種類は、先述の他に、《海外都市のコミュニティ》《職場(会社)内のコミュニティ》等も散見され、想像以上に多様な広がりがあることに驚かされました。

当然のことながら、季刊誌『茗溪』に掲載された記事は、ほんの一握りで、他に数多くの会合や諸活動が開催されていることが想像されます。不定期の会合もありますから、その数は千の単位かもしれません。

会合の報告記事から、開催日時、場所、参加人数、開催当時の年齢など、わかる範囲で拾ってみました。

五～六人の会合から百人以上の参加規模の会合まで様々です。年齢については、卒業を起点とした52歳、62歳、72歳や、古稀、喜寿など賀の祝いに合わせた会合が多くみられます。

海外在留邦人の数は130万余に達し、今後も増加傾向にあるようです。また、一国で一人以上の国は20余を数えます。その中には筑波大学はもちろん、東京教育大学をはじめとした前身校の同窓達も数多く含まれていると推測できます。これらの諸国(都市)で同窓のコミュニティが出来たらどれほど心強いことでしょうか。

また、各界に多くの人材を輩出しており、企業内や業界などに同窓のコミュニティが形成されれば、学生達にとっても大きな意味をもつことになるでしょう。

今後、様々な同窓組織とその会合や諸活動が『茗溪』誌上で紹介されることにより、新たな関係や新しいコミュニティ形成の一助となれば、同期生同士や母校と同窓生とをつなぐ機能をいかに発揮できるものとなりましょう。今回の調査がその嚆矢となることを願っています。

(組織委員会調査担当)

# Peer Garden

## 交流広場

茗溪創基150年記念事業

同じ大学を卒業したということだけでは、  
つながりを強く感じられないと思います  
ふたつ目の理由が必要かと思うのですが  
それが“茗溪”なんじゃないですか？  
ある学生の発言より

## 1 Peer Gardenって？

茗溪創基150年記念事業の一つとして、季刊誌『茗溪』誌上やHP上で同窓の交流を図る企画を進めています。

大学でPeer Support（ピア・サポート、学生同士で支援する制度）が広がっています\*。Peer（ピア）…聞きなれない用語ですが、「同僚、同輩、同級生、仲間」などの意味をもつ英単語です。「同窓」を英語でAlumniといいますが、単に「同じ大学を卒業したということ」だけではなく、ふたつ目のつながりの理由として、情報を交換しあい、活用しあい、支えあい、刺激しあう、そういった交流があってもいいとは思いませんか？

ひと昔前は、ビアホールやピアガーデンが盛んで、仕事帰りに同窓と待ち合わせて、「やあ！」に始まり、愚痴をこぼしたり励ましあったり、仕事上で助けあったり、新規の事業や同好の会をともに立ち上げたり、そういったきっかけとなる場でもありました。



PeerのPにU(半円)を加えるとBeerのBとなります。各人がUを持ち寄りOにする。Oが繋がり大きな絆になる。ホールより、開放的なガーデンがいいということで、交流広場をPeer Gardenとしました。

\*独立行政法人日本学生支援機構(JASSO)による「大学等における学生支援の取組状況に関する調査(平成29年実施)」では、大学全体で52.4%、国立大学では88.4%が実施されています。

### ●地域や海外のコミュニティ

NO	同窓組織、会合、諸活動	開催年月日	開催場所	参加数	掲載号
1	茨城茗溪占春会				1082
2	新宿茗溪会(新宿に縁のある人)	2009/10/10	茗溪会館	24	1064
3	筑波大学卒業生の会(愛知県筑波大学卒業生の会)				1093
4	茗溪会愛知支部女性の会				1093
5	ジャカルタ茗溪会	2017/12/17	チェンカレンゴルフクラブ	4	1097
6	バンコク茗溪会	2014/7/5	ロイヤルバンコクスポーツクラブ	18	1083
7	北京茗溪会				1098



No.28 体育学部女子の集い



No.13 高翔会



No.5 ジャカルタ茗溪会

## 2 Peer Garden Menu

- (1) 多種多様な情報を発信していきます。
  - ・国内外の同窓組織や会合、諸活動等
  - ・同窓が経営する企業や運営する事業等
  - ・各方面で活躍する同窓
- (2) 様々な活動の企画・運営や新規立ち上げのヒント、あるいは合同開催などの橋渡しの場として活用いただけるかと思えます。

### ●手始めに

同窓組織や会合、諸活動は、国内外で盛んに行われている噂を耳にします。かなり多いようですが、実態は不明です。そこで、情報を出し合ったり、掘り起こすことで、ある程度の全容を掴むことはできるかと思えます。こうして作成された「国内外の同窓組織や会合、諸活動の一覧」は、新規加入のきっかけ、情報交換や連携・協力が容易となるINDEXとして活用されるかと思えます。

### ●作業の手順

- ①平成年度の季刊誌『茗溪』に掲載された諸会合や諸活動を一覧にして紹介いたします。
- ②同時に、各地域や会員から情報をいただき、会合や諸活動を追加し、一覧にして紹介いたします。
- ③さらに、HP上で「同窓組織や諸活動」を開設し、詳細な紹介記事や照会先を掲載します。

# 茗溪会と筑波大学名誉教授の会

## との連携に際して

大嶋建一（名誉教授の会会長、茗溪会賛助会員）

茗溪会は明治草創の時代から現在まで幾多の素晴らしい歩みを絶え間なく継続し、近々150周年を迎えることをお聞きし、昭和61年4月に赴任しました私にとつて驚きです。また、本年のNHK大河ドラマ「いだてん」では東京高等師範学校の嘉納治五郎先生、金栗四三さんがスクリーンに現れてマラソン、オリンピックに関連した歴史的瞬间を伝えることに感動しながら毎週欠かさず見えています。このような歴史と伝統のある組織と筑波大学名誉教授の会が連携を持つことは大変うれしく思っています。以下、連携に関する項目について記述します。

「名誉教授の会の概要」：「筑波大学名誉教授」の称号は人事委員会（最近では教育研究評議会と改称）の議を経て、大学より授与される公的な身分で、令和元年6月現在747名の先生方がおられます。一方、「名誉教授の会」は昭和61年5月に発足し、本会の目的である「会員相互の親睦を図ると共に、筑波大学の発展に寄与すること」の目的に賛同し、終身会費を納入した600名以上の名誉教授の方々から構成されています。活動の内容は(1)会報等の発行、(2)講演会等の開催、(3)その他本会の目的を達成するための必要な事業、となっております。また、会は旧所属学系から選出の役員と会長、副会長、庶務、会計、会報担当の数名の幹事、さらには事務支援の大学本部総務課の職員によって運営されています。会では組織的に行動することはあまりありませんが、名誉教授の先生方は研究と教育の分野で世界を相手に長年にわたり遂行しましたお仕事の経験を生かして、退職後も大学の枠を超えて、日常生活の中で社会貢献事業に関与しています。会では今回の連携をより円滑に進めるために、庶務担当の幹事を一名増やし、茗溪会理事の新井達郎先生（特命教授・名誉教授）に就任していただきました。なお、会のHPは既に茗溪会のHPにリンクされていますので、活

動情報を見ていただければ幸いです。

〔中・高・大教育連携の経験〕…赴任後10年程経過した

頃、若者の理科離れに関する報道が時々目にふれましたので、一人でも多くの若者に「科学の楽しさ・面白さ」を伝えることが重要であることを気づきました。初めての出前講義は私が卒業しました群馬県赤城山南麓の柏川中学校の体育館で約600名の全在校生に対して実施しました。前半では私がどのように科学に興味をもったか、また、なぜ研究者になろうとしたのかを述べました。休憩後の後半では、持参しました「科学おもちゃ」の機能を説明し、日常生活と科学の関連性を判りやすく伝えました。そして最後には朝永振一郎先生のお言葉「ふしぎだと思ふことこれが科学の芽です。よく観察してたしかめそして考えることこれが科学の茎です。そうして最後になぞがとけるこれが科学の花です。」で講演を閉じました。その後、田崎明先生（当時物理工学系教授）を代表として近代科学出前実験という事業を立ち上げ文部省から資金を獲得し、全国的な活動を開始しました。私が最初に訪れたのは新潟県新発田南高校、山形県三川中学校で、私の専門分野に関連した物質の楽しさ・面白さについての話題を述べました。その後、南は鳥取県から北は岩手県までの小・中の義務学校および高校を数十回訪問しました。その中の富山東高校とは1998年以降20年間、毎年の夏と冬に相互交流を持っています。21世紀に入りますと若者の少子化問題に備え、一人でも多く勉学意欲のある学生の獲得のために教育社会連携推進室、広報室、アドミッションオフィス、学類が協力して、来学した高校生を対象に模擬講義、体験実験等を実施してきました。この企画は非常に評判がよく、多くの高校生が来学しますので、現役の先生方では対応できなくなりました。そのため、大学ではシニア・プロフェッサー制度を創設し、退職した先生方の活躍の場が出来まして、私はその世話役を一昨年度まで務めました。これらの事業を通じて、筑波大学卒業生達の教育現場での大活躍、さらには創設時の長靴族が管理職として教育行政に携わっている姿に接し、感激しました。

「教育の現状分析」…21世紀では様々な難問を国際的に解決することは急務です。中でも「教育」はますます重要な地位を占めています。日本ではまだ国際的に通用しないシステムがあることは残念です。その例として、

多くの高校で採用しています理系と文系に授業を分離することです。文系では論理的な科目である理科（ここでは科学と同義語）と数学の授業の比重が下がり、その結果として論理的な思考の低下することを危惧します。ここで、20世紀末から英国サッチャー政権下で始まった新たな義務教育改革を紹介します。将来を担う子供たちに夢を持たす教育では「科学」を「国語（英語）」、「算数（数学）」を同列として、コア科目と位置付けています。サッチャー夫人はタンパク質の構造解析で1964年にノーベル化学賞を受賞したホジキン先生の教え子で化学の学位を取得していますので、この発想が出たと思われれます。2006年には「21世紀の科学」G C S E 科学」が決定されました。その骨子は従来型の専門家を育てるための縦割りに知識を深く教える方法を残しつつ、知識偏重型でない「市民の科学的リテラシーのための科学教育」の授業を必修科目にしたことです。このことは物事を横断的に教えることになります。この詳細については「原子力と理科教育―次世代の科学的リテラシーのために」(笠潤平著 岩波ブックレットNo.886)に記述されていますので参考にして下さい。

「教育連携の私案」…日常社会では文系、理系に関係なく、複雑に絡み合った問題が常に存在します。その解決のためには若者は多角的な見方を早くから身につけることの重要さが指摘されています。20年後、30年後に社会の第一線で活躍する子供たちに夢を持たせる教育とは私達の様々な体験・経験を若者に正確に伝え、今後グローバルな見識を持ち、世界の福祉と平和に貢献する人材育成であると考えます。これからは私からの提案ですが、全国を網羅しています茗溪会支部の会合の折に、近くにお住まいの、または生家が地元、名誉教授の先生をお呼びし、例えば、「激動の21世紀に活躍できる人材をいかに育てるのか」の講演を依頼していただくのはいかがでしょうか？具体的には両組織から新井先生を含む少数人数の委員を選出し、企画実施するのがよろしいと思います。先生方は通常の業務に加えて、私には想像できない多くの残業でお疲れだと思いますが、時には「若者に夢を生みださせる教育」の実現についての意見交換の場を作ることが出来ればと思います。（2019年12月2日記）

# 筑波大学は今

**筑波大学が箱根駅伝予選会を突破！  
26年ぶりに箱根駅伝へ返り咲く**

10月26日に開催された第96回東京箱根間往復大学駅伝競走(箱根駅伝)予選会において、筑波大学は昨年の17位から大躍進を遂げる第6位という好成績を収め、1994年以来26年ぶりに箱根駅伝出場の切符をつかみました。



弘山監督(前列右から6番目)を囲んで

本予選会は、43大学が出場し、そのうち上位10大学が箱根駅伝出場をきめました。

本学では、箱根駅伝出場を目標に2011年から「筑波大学箱根駅伝復活プロジェクト」を発足し、2015年に本学OBの弘山勉氏を監督に迎え、プロジェクトの推進を加速させ、この度悲願達成となりました。

箱根駅伝は、前大会でシード権を獲得した10校と予選を勝ち抜いた10校の計20校で争われます。筑波大学は挑戦者として1つでも上の順位を目指して精一杯の準備をしております。

**永田学長が東アジア研究型大学協会(AEARU)  
総会・理事会に出席**

10月30日、東アジア研究型大学協会(AEARU)第45回理事会・第25回総会が韓国・延世大学で開催されま

した。

本学からAEAURU理事長として永田恭介学長のほか、ベントン・キャロライン副学長(国際担当)及び大根田修執行役員(国際戦略担当)が出席しました。

本学は事務局として永田学長が議長を務めたほか、ベントン副学長が司会進行を担当し、2018-2020年度の活動報告及び活動計画、2018-2019年度の会計報告、次期理事校の選出や今後の運営方針に関して議論されました。

永田学長のAEAURU理事長としての任期は2018-2019年の2年間のため、今回は任期中最後の理事会・総会となりました。

## 中国大学生訪日団とスポーツ交流を開催

11月13日に、外務省が推進する「日中植林・植樹国際連帯事業」で来日した中国大学生訪日団と本学の卓球部及びバドミントン部がスポーツ交流を行いました。

歓迎式典では、佐藤忍副学長(学生担当)及び訪日団代表の挨拶や記念品交換が行われました。

スポーツ交流が始まり、最初は緊張気味だった中国大学生訪日団の選手たちもスポーツを通して親睦を深め、後半は笑顔あふれる活発な交流となりました。

また、スポーツ交流後の夕食交流会では、本学の中国人留学生が通訳ボランティアとして加わり、学生たちお互いの近況や競技に関する話題に交流を深め、充実した国際交流の機会となりました。



夕食交流会での1枚(中国選手を囲んで)

## 柳沢正史教授が令和元年度文化功労者に選出

令和元年度文化功労者・文化勲章受章者が発表され、本学国際統合睡眠医学研究機構長の柳沢正史教授が文化功労者に選出されました。文化功労者は、日本において、文化の向上発達に特に功績顕著な者に贈られます。柳沢教授は分子薬理学の分野において、強力な血管収縮作用を有する生理活性物質「エンドセリン」と、睡眠/覚醒を制御している神経伝達物質「オレキシン」を発見し、その作用機構を解明するとともに、ヒトの疾患との関わりを明らかにし、革新的な医薬品開発に結びつける優れた業績を上げ、医学の発展と人類の健康増進に多大な貢献をしたことが評価されました。

また柳沢教授は、茨城県が学術・芸術・スポーツ等の各分野において県勢の発展に著しい功績があった人物・団体をたたえる表彰のうち、最高位にあたる県民栄誉賞も受賞しました。

## 令和元年 秋の褒章において 山海嘉之教授が紫綬褒章を受章

本学サイバニクス研究センター研究統括の山海嘉之教授(システム情報系)が本年秋の紫綬褒章を受章することが決定しました。紫綬褒章は、科学技術分野における発明・発見や、学術及びスポーツ・芸術文化分野における優れた業績を挙げた個人に授与されます。

山海教授は、人とロボットと情報系が融合した「サイバニクス」という新学術領域の開拓を推進してきました。脳神経・筋系からの生体電位信号によって人とロボットをつなぎ、装着することで身体機能を改善・補助・拡張・再生する世界初の「装着型サイボーグHAL」を実現し、脳神経・筋系疾患に対するサイバニクス治療、高齢者の自立支援、労働作業支援を行う革新的サイバニクスシステムの基礎研究と社会実装を同時展開しています。このような取り組みが人間工学研究の功績として高く評価されました。

## 茗溪創基150年記念事業寄付金募集趣意書

拝啓

会員の皆様におかれましては、時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。日頃からの茗溪会へのご協力に心より感謝申し上げます。

茗溪会は明治、大正、昭和、平成と時代を乗り越え、連綿と活動を続けて来ました。高等師範学校から東京教育大学に至る時代の会員の皆様は日本の教育基盤の形成・発展等に寄与され、筑波大学の時代の会員の皆様は学際的かつ国際的に開かれた教育・研究活動を基に多彩な分野で活躍されています。

150年前の創基を遙か彼方に望めば、大学卒業後の社会人生活を40年とすると4世代を超える会員皆様の多彩な活躍の集積が歴史となっています。其々の大学がその時代に求められた重要な課題に対応すべく姿を変えてきたこともあり、茗溪創基150年は、波瀾万丈、百花繚乱の歴史といえます。一方で、その長さ多彩さを鑑みれば、先達からの伝統の継承は容易なことではないのも事実です。

翻って茗溪会の活動をみれば、筑波大学の卒業生が42期を数える中、地域では着実な活動が継承されており、さらに、地域ブロック全体を視野に入れるなど活動は広がりを見せています。また、産業界等を中心とした「茗溪・筑波産業人倶楽部」が発足し活動を活発化させています。こうして担い手は継承され新たな活動が生まれているのです。

時あたかも“令和”の時代を迎えました。こうした担い手が、茗溪会の先達の高邁な志や誇り高き伝統に思いを馳せ、レガシーを大切に、自らの経験と感性に基づき茗溪創基150年の歴史を編む、まさにその時を迎えているのではないのでしょうか。

この時を活かすため、茗溪創基150年記念事業を展開したいと考えます。この事業では多彩な企画を準備し、会員の皆様の幅広い参加を推し進めつつ実施する所存です。記念事業の中心となる時期を令和4年（2022年）に置き、本年からスタートして約4年間に亘って諸企画を進めて参ります。

記念事業の所要経費は拠金方法により賄うこととし、全国会員の皆様に多大のご協力をお願いする次第です。

全国茗溪会会員の皆様に対して、本会の益々の発展のために、更に本記念事業の成功を期してご寄附へのご協力をお願い申し上げます。



## 寄付 募集要項

- (1) 名 称：茗溪創基150年記念事業 寄付
- (2) 募金の目的：茗溪創基150年記念事業（記念事業及び筑波大学・学生支援）
- (3) 目標金額：100,000,000円
- (4) 申込み方法：本寄付趣旨にご賛同・ご支援いただけます際は、お手数ですが「寄付申込書」（本号に同封）に内容ご記入のうえ、返信用封筒（本号に同封）をご利用いただくか、又はFAXにて事務局までお送りいただきますようお願いいたします。申込書送付の後、同封の「郵便払込取扱票（150年記念事業寄付）」にて寄付金をお振込みいただきますようお願い申し上げます。
- (5) ご送金方法：今回のご寄付の金額は、5,000円を1口として最高8口を基本に（5,000円～40,000円）1回払・2回払をお選びいただけますが、それを上回るご寄付もありがたくお受けさせていただきます。
- (6) 顕彰について：ご寄付をいただいた会員様につきましては、今回編纂予定の「茗溪150年誌」にお名前をお載せし顕彰させていただきます。
- (7) その他：個人の会員様の場合は、本件寄付は確定申告の寄付金控除対象とはなりませんのでご了承のほどお願い申し上げます。

法人様の場合には「一般寄付金」扱いとなりますので、「経費算入限度内」でのご寄付をお願い申し上げます。

$$\{(資本金 \times 2.5 / 1000 + \text{税引前当期利益} \times 2.5 / 100) \times 1 / 4\}$$

※郵便払込取扱票」ご利用の場合の手数料は当会負担となります。

※金融機関発行の「振込控」をもって領収書に代えさせていただきます。

※請求書・領収書が必要な場合はあらかじめ事務局までご連絡ください。

以上

◆桐心会(神奈川県内在住、在勤の茗溪体育同窓会)

とき 令和元年3月9日(土)  
 ところ 「北京飯店」大和駅前  
 毎年この時期に開催しており、今回は33名が参加しました。昭和29年卒から平成30年卒まで世代を超えて、昔話や近況を熱く語りました。やはり気になるのは、筑波大学各運動部の動向、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催も近づき、後輩たちの活躍を祈り、最後は宣揚歌「桐の葉」を熱唱し散会となりました。



◆第一学群社会学類5期生 還暦同窓会

とき 令和元年7月27日(土)  
 ところ ホテルグランド東雲(つくば市)  
 私どもは、同窓生76名が確認されていますが、2名逝去されています。現時点で把握できている74名のうち37名が、遠くは長崎、島根、大阪、富山、長野、愛知等から駆けつけてくれました。当日は台風の接近があり、開催自体が危ぶまれましたが、卒業アルバムの各人の写真を背景に全員が現況紹介をして、思い出深い会となりました。翌日の筑波大学の散策等も無事に行うことが出来ました。  
 (文責：石川雅規)



◆神奈川茗溪会総会・懇親会

とき 2019年7月27日(土)  
 ところ 「ローズホテル横浜」横浜中華街  
 毎年7月に開催、今年の講演会の講師は、東京教育大学陸上競技部OBの船原勝英氏(共同通信社)にお願いしました。テーマは筑波大学箱根駅伝への挑戦です。金栗四三選手や嘉納治五郎先生の話から母校が箱根駅伝を走って来た歴史を知ることができました。最後に出席者45名で箱根駅伝復活を願い、桐の葉を歌いエールを送りました。



◆2019年度 伊藤忠茗溪会

とき 令和元年7月29日(月)  
 ところ DEN(デン)表参道  
 毎年、「伊藤忠茗溪会」と称し、伊藤忠商事の筑波大学または大学院出身の有志で、新入社員の歓迎会を兼ね集まっています。現在管理している名簿では、会員は60名を超え、当日は世界各地から12名が参加し、部署を越え楽しいひとときを過ごしました。2020年の新入会員は2名予定しています。これからさらに盛り上がってまいります。  
 (文責：岩根賢幸)



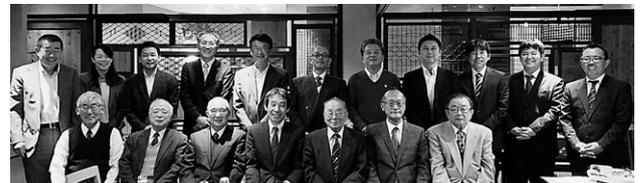
◆東京教育大学理学部地理学専攻昭和49年卒同期会

とき 令和元年9月26日(木)～27日(金)  
 ところ 静岡県 KKR伊豆長岡千歳荘  
 卒業後45年が経過し、前回の熊本以来6年振りの同期会を柿田川湧水と登呂遺跡の巡検を兼ねて静岡で実施しました。遠くは鹿児島・熊本・高松等からも参集があり、同期22名中10名での会となりました。70歳近くになった今でも現役で働いている者もあり、それぞれの近況と学生時代の思い出に浸る親睦の2日間を楽しみました。  
 (幹事：新見 治、写真：嶋田 純)



◆令和元年度 静岡県茗数会 総会

とき 令和元年11月23日(土)  
 ところ ホテルシティオ静岡  
 静岡県茗数会は、静岡県の東京教育大学、筑波大学卒業の高校の数学教員の集まりの会です。昭和45年を第1回として、今年は第50回目の開催となりました。参加者は、最近では最多の18人でした。また、一人一人の近況報告では、学校の様子、自分の趣味の話、ちょっとした数学の話題、働き方改革の現状、その人への質問コーナーと大変盛り上がりました。会の幹事は2人から4人の輪番制で、令和8年度まで決まっています。  
 (文責：高田道雄)



◆食医同源之会

とき 令和元年9月29日(日)  
 ところ つくばセンター～農林技術センター～大学～楼外楼  
 毎年恒例となった当会を筑波の地で開催したらという要望に応じて、今回はつくばセンターに集合し、バスで大学を見学するという企画を実施しました。同期で生物資源学類長の茂野さんのガイドで40年ぶりの農林技術センターを散策し、大学会館前の嘉納治五郎像を拝見しました。その後のランチは大いに盛り上がりました。  
 (56年卒 渡邊(草間)悟)



◆東京教育大学体育学部昭和34年卒業女性の会

とき 令和元年10月25日(金)  
 ところ 渋谷エクセル東急  
 折からの激しい雨の中、昨年と変らぬ面々が元気に集まりました。25階から眼下に広がる渋谷の街の変貌ぶりに驚きながら、半世紀前のオリンピックの思い出や来年のオリンピックへの期待を語り合いました。会の半ば、「来年も会いましょう」の声が上がり、5年連続の開催を約束して散会しました。  
 (文責：築地彌生)



◆東京教育大学陸上競技部

中・長距離ブロック昭和46年度入学同期会  
 とき 令和元年10月27日(日)  
 ところ 八百治博多ホテル  
 昭和46年度入学の陸上競技部 中・長距離ブロック同期会を福岡の地で開催いたしました。昭和50年3月の卒業以来、初めて会う仲間もいました。保谷寮での駅伝宿舎等の昔ばなしもさることながら、まず、第一の話題は、前日の箱根駅伝予選会での筑波大学の6位通過でした。おかげ様で正月の楽しみが増えました。  
 (文責：森山善彦)



◆令和元年度「東茗会」例会

とき 令和元年12月1日(日)  
 ところ 池袋  
 今年度の「東茗会」例会を池袋で開催しました。東京高等師範学校、東京文理科大学、東京教育大学、筑波大学で主に東洋史を専攻し、東京都内の学校に勤務する卒業生の集まりです。年代も40代から80代まで幅広いのがこの会の特長ですが、今回は新学習指導要領の「歴史総合」の取扱いが大きな話題になりました。



◆関東10人会(昭和39年卒 東京教育大学農学部農業工学科)

とき 令和元年12月4日(土)  
 ところ 中華料理「ノブノール」浦和店  
 早くから、東京に大学進学を目指していた。国立大学を探したなかに、何を学ぶのかはわからないが、建設系かと想定し、『農業工学科』を選んで入学を果たした。20人だった。教授に「農業に土木！」と言われ、望んだ『土木』だと安心した。授業・実習・見学で、向いた方向は東北だった。17人と社会に出て、ダム・橋・道路・基礎等分野で、国土創造に貢献した。出合いを年2回に増やしてから、今回で13年目となった。(発起人：岡田宜昭 文・投稿：野中祥敬)



「桐の葉のつどい」の掲載について

以下の要領で写真と原稿をお寄せください。

(写真) フィルムカメラ、デジタルカメラのいずれかで撮影したもので結構です。紙焼きでも、デジタルカメラの場合はデータをメールでお寄せいただいても結構です。

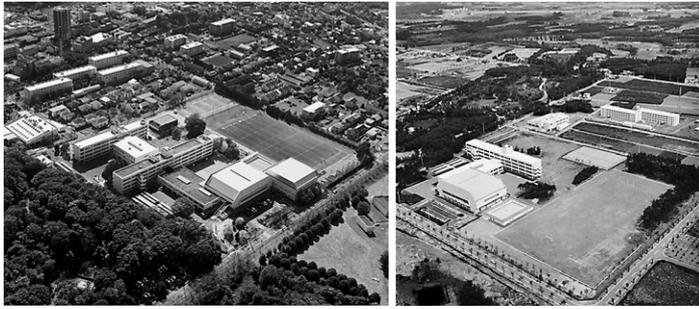
(文章) グループの名称、お集まりになった「とき」「ところ」を別項にして、必ずお書き下さい。会の模様を紹介する文章は31文字×5行以内。

# 茗溪学園だより

## 創立40周年を迎えました

昭和52年5月の茗溪会代議員会に、百周年事業の一環として「筑波の地に学校を作る」という提案があり、満場一致で承認され、茗溪学園が誕生することになりました。2年の準備期間を経て昭和54年4月に開校し、そして今年度40周年を迎えました。

建学の理念は、「一、人間教育を行う。それによって国家及び人類に貢献しうる世界的な日本人を育成する。特に徳育・体育を重視し、人間味が豊かで連帯感・責任感の強い創造力に富んだ人材を育成する。二、教育愛・使命感に徹し、人格識見共に優れ、指導力をもつ教職員を集め、緊密な協力体制の下に生徒の教育にあたる。三、筑波大学の協力を得て、最高の学理に基づき最高の方法を駆使し、最新の設備を充実させ、教育成果の向上を期する。」であった。茗溪学園を真の教育という名に値する日本のモデル校にしたいと考え、岡本稔氏を校長に選任した。岡本氏を中心として練られた教育指導の具体案が、次の6つである。「考える学習を」「日本の自然・文化の理解を」「国際的視野をもてる教育を」「フェアプレーの精神を」「寮生活を



左：現在の学校全景写真。右：1979年創立間もない頃の校舎、体育館、食堂、学寮など多くの施設が増築された。学校周辺の様子も大きく変わり40年の時の流れを感じる。

を

を通じ人間のふれ合いを」

(以上「茗溪会百年誌」より)。

初年度、中学3学級、高校4学級、生徒数31名(内寮生188名)で始まった本校ですが、現在、中学6学級、高校7学級、生徒数1532名(寮生176名)の学校となりました。卒業生総数は8689名です。創立以来の建学の精神を堅持し、「生命尊重の精神を育て自分で考え行動できる人づくり」を推進するための教育プログラムをたて、40年間実践してきました。40周年に当たり、次のような事業計画を立てましたのでご紹介させていただきます。

1. 記念式典(令和2年2月22日挙行予定)
2. 記念誌の発刊
3. グローバル教育及び課題研究活動の推進、ITC教育機材の充実
4. 筑波大学との連携強化(グローバル化推進協定による活動の推進)
5. 施設改修・拡充による生徒学習支援、父母会活動支援、同窓会活動支援
6. 50周年での校舎一部建替えに向けた募金活動の開始

茗溪会では、創基150年に向けた事業計画が進められています。私ども茗溪学園は、明治以来人づくりに邁進してこられた茗溪会のDNAを受け継いだ学園として、昭和、平成を歩んでまいりました。新しい令和の時代を迎え、気持ちも新たに理想の教育を求めて、未来に向けて前進してまいりたいと存じます。引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。

本校のIBDP開設の結果発表を待つています。

本校のIBDP開設科目(6グループある)は、①「日本語A」②「English B」③「歴史または Environmental Systems and Societies」④「物理または生物」⑤「数学」⑥「Film」です。

高校1年次は、他の生徒と同じ学級に所属し、行事などの諸活動を共にし、学年としての一体感を共有しています(一部授業は別教室でIB生のみ)。2年次からは、IB課程として独立した学級編成となりIBDPの科目履修が始まります。1期生ですから、全てが初めてのことばかりで、戸惑うことも多い中、担当教師陣は万全の注意を払って学びを深めてきました。7月に受験した「Mock Exam」(本校では「予測スコア確定試験」と呼ぶことになった)による「IB Predicted Grades」では13名の平均点も高く高得点者もいたことから、初年度としてはまずまずのスタートと、この最終試験結果に期待しています。



IBDPの授業のようす：DP2「生物」・顕微鏡観察

## 国際バカロレア・ディプロマ (IBDP) 報告

2017年度から始まった本校のIB課程、その第1期生13名が、11月実施の「Final Exam」を受験しました。試験期間は11月5日から3週間13日間に及びました。ペーパーテストだけでも各科目2〜3あるので、合計では12回以上になります。受験する生徒の緊張感も相当のものでしたが、長期間になる試験期間をミスのないよう運営しなければならぬIB課程担当教師も、大変な緊張だったと感想を漏らしています。無事終了し今は1月

### 部活動など結果報告(9月~12月)

- ◎**高校ラグビー部**：8年連続25回目の全国大会出場(東大阪市花園ラグビー場、12月28日が初戦)。茨城国体結果1回戦愛知県に惜敗。
- ◎**中学ラグビー部**：第39回東日本大会出場(東京江戸川競技場12月末4年連続18回目の優勝目指す)、第25回全国ジュニアラグビー大会出場(茨城選抜として、東京夢の島競技場ほか、12月末)
- ◎**中学バドミントン部**：県新人大会・男女団体優勝、個人単・複共に男女優勝、全日本ジュニアグランプリに男女各1名出場。
- ◎**高校バドミントン部**：関東選抜大会出場(12月千葉開催)。全日本ジュニアグランプリに男2名出場。
- ◎**高校軟式野球部**：県新人大会優勝。関東大会3位。

## 追悼録 (敬称略)

桑原 敏明	筑波大学名誉教授 茨城	1・7・27 妻	桑原 礼子
伊與田康雄	筑波大学名誉教授 茨城	1・11・3 妻	伊與田頌子
横山 貞雄	23臨数 新潟	1・9・3 長男	横山 貞明
須賀 昭一	23臨物象 埼玉	1・7・27 妻	須賀 朋子
山下 真一	25大英 東京	1・9・10 長男	山下 英一
望月 正	25体 静岡	1・10・28 子	望月 直
平野 耕平	25農教 新潟	31・3・26 妻	平野 榮子
鳥塚 一男	26大物 埼玉	31・1・26 長男	鳥塚 光一
矢萩 力也	26理一 茨城	1・8・11 長女	矢萩 恵子
和田 米郎	26体 東京	1・10・6 長女	島田 尚子
深川 善次	26芸 佐賀	1・10・6 妻	深川 秋子
大竹 勉	27文三 茨城	1・7・23 妻	大竹 桂子
田中 猛	28教大体 岐阜	31・2・21 妻	田中 房子
渡邊 功	28教大健 静岡	1・9・19 長男	渡邊 光典
村上 安則	29教大哲 神奈川	31・4・24 妻	村上美代子

## 逝去会員氏名・卒年科・逝去年月日・地域・続き柄・遺族氏名

松本 丞司	29教大地鉦 神奈川	1・8・9 妻	松本 フミ
松下 繁雄	30教大体 鹿児島	1・9・13 長男	松下 典史
永喜 宏	31教大國 神奈川	31・1・8 妻	永喜 洋子
内田 悌二	31教大体 佐賀	1・7・21 妻	内田 允子
堀籠 二郎	31教大体 宮城	1・10・10 長男	堀籠 知己
宮崎 和順	32教大教 長野	1・8・8 妻	宮崎 順子
浅野 三郎	32教大体 岐阜	1・9・5 妻	浅野 皖子
五十嵐修二	33教大独 東京	1・8・1 兄	五十嵐耕一
栗田 子郎	34教大植 静岡	1・8・22 長女	栗田 香子
金田 進	35教大経 埼玉	1・7・9 妻	金田 光代
山口 祐二	35教大物 茨城	1・5・2 次女	山口 美穂
渡辺 寛	36教大物 茨城	31・3・29 妻	渡辺 祥子
五ノ坪和彦	40教大体 香川	31・3・18 妻	五ノ坪恵子
武田 蹤一	42教大健 山形	29・7・21 妻	武田 照井
山田 芳史	56筑一自 静岡	1・5・25 妻	山田英津子



Service Safety Sincerity  
あなたのそばに。セキショウグループ。

# SEKISHO

Energy for your Life

当社は「一般財団法人 関彰育英会」を通して、筑波大学大学院博士後期課程の院生に、研究支援として奨学金の支給を行っております。



## 関彰商事株式会社

代表取締役社長 関 正樹 (学校法人 若溪学園理事)

つくば本部 / 茨城県つくば市二の宮 1-23-6 TEL 029-860-5151

若溪会担当: 取締役常務執行役員 岡本 俊一  
(昭和56年 第一学群 社会学類 卒業)

<http://www.sekisho.co.jp/>

安全に、快適に、正確に  
**OZONE** 大曾根タクシー株式会社

代表取締役 塚本 育子

☆お迎え料金無料  
☆カード利用 OK!  
☆貸切バス事業者より  
安全性評価認定(★★★)されました



〒300-3261 茨城県つくば市花畑3丁目19-4

TEL 029-864-0301

FAX 029-864-4727

メールアドレス <http://www.taxi.e-tsukuba.jp>

フリーダイヤル 0120-000-302

各営業所に通じます

# 令和元年秋の褒章・叙勲・ おめでとうございます(敬称略)

## 紫綬褒章

山海 嘉之 62 筑修理 (筑波大)

## 瑞宝中綬章

金子 隆芳 27 大心 (東京)  
阿部 聖仁 28 教大物・33 院博物 (東京)

## 瑞宝小綬章

添田 均 39 教大休 (岩手)  
花井 宣明 47 教大休 (福島)  
山野井 暉 33 教大休 (栃木)  
菊池 建太 45 教大地 (埼玉)  
竹信 武 34 教大休 (神奈川)  
細田 幸一 50 教大独 (埼玉)  
瀬古 淳二 42 教大休 (三重)  
木村 潤 46 教大休 (徳島)

## 瑞宝双光章

布浦 宏 45 教大健・49 院修健 (群馬)  
落 信久 43 教大休 (神奈川)  
長尾 保 47 教大武 (兵庫)  
高山 精二 49 教大西史 (大分)  
船木 輝久 44 教大休 (鹿児島)

## 高齢者叙勲 瑞宝小綬章

小林 正治 30 教大休 (栃木)  
松下 繁雄 30 教大休 (鹿児島)

## 文化功労章

柳沢 正史 60 筑医 (東京)

※本欄は、各地域からの調査報告により掲載しております。もし記載もれがある場合は、お知らせください。

## 広報

### ▽三法人合同新年会

令和2年1月18日(土)  
16時～ 茗溪会館

※三法人・茗溪会・筑波学都資金財団・茗溪学園

### ▽茗溪穆談会

令和2年2月29日(土)  
12時～ 茗溪会館

・茗溪会の事業の状況と組織の現状等について  
・茗溪創基150年記念事業の企画推進について  
※茗溪穆談会・茗溪会に関する有識者懇談の会

### ▽茗溪・筑波産業人倶楽部

令和2年2月29日(土)  
15時～ 茗溪会館  
・意見交流会

### 表紙の言葉

神奈川茗溪会 添野 龍雄

題 名…冬のベイエリア  
撮影場所…山下公園、氷川丸手前  
撮 影…添野友里江

左の高い建物が横浜ランドマークタワー、中央部に横浜コスモワールドの大観覧車、横浜赤レンガ倉庫や横浜インターコンチネンタルホテルの頂部が見え、その手前の建物が大さん橋ふ頭ビル、そこから右に広がるのが横浜港大さん橋国際旅客ターミナルです。

山下公園は、休日の昼間とあって、人も多く、ユリカモメを追って遊ぶ子供たちの姿もありました。

開発・発展が続くみたとみらい地区と、いこいの場という対比になっています。が、ここには写っていない、明治からの歴史的建造物、文化施設や横浜中華街などを含め、この地区は多面的に楽しむことができます。ご来訪の際は、ぜひ一日かけてじっくりとご堪能ください。

## 編集後記

新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひ申し上げます。

◇昨年末のトピックの一つは、やはり26年ぶりの本選出場を決めた筑波大学の箱根駅伝チームでしょう。本号では急遽、弘山監督に「…悲願達成の裏側にあるもの」と題して原稿を書いていただきました。本号が皆様の手元に届く頃には本選の結果が出ていますが、引き続き来年も本選出場が叶うよう期待しています。

◇その他、新たに茗溪創基150年記念事業の一つとして「Peer Garden(交流広場)」の掲載を始めました。今年が皆さまにとってより良い年となりますよう祈念しております。

### お願ひ

・正確な会員情報把握のために、住所、勤務先の変更はすぐにご連絡ください。  
・年会費のお振込みは、早めにお願ひいたします。

令和2年1月15日発行

発行 一般社団法人 茗 溪 会

茗溪会事務局・大塚事務所

112-0012 東京都文京区大塚一-五-1-33

TEL 03-3394-1013

FAX 03-3394-1767

E-mail info@meikei.or.jp

URL http://www.meikei.or.jp

郵便振替記号番号 00150-14977

筑波事務所

305-8577 つくば市天王台一-1-1

筑波大学・大学会館内

TEL 029-850-1044

FAX 029-850-1045

E-mail tsujinnu@meikei.or.jp

印刷 東京都文京区関口一-39-10

山浦印刷株式会社

—筑波大学の知の発信—  
**筑波大学出版会**  
<http://www.press.tsukuba.ac.jp/>

2020年刊行予定

もっと知りたい!  
**「科学の芽」の世界 PART 7**

「科学の芽」賞実行委員会 編  
**シリーズ本**  
 カラー/紙版・電子版/B5判並製

発売：丸善出版株式会社  
 TEL:03-3512-3256  
 FAX:03-3512-3270  
<https://www.maruzen-publishing.co.jp/>



**【増補改訂版】**  
**森林学への招待**  
 世界の森林に何がおきているのか。その実態に迫る！人類に多大な貢献をしてきた森林。はたしてその実態はどうなっているのか。森林の遷移、水と土壌、森林のDNA、地球温暖化と森林などの視点から森林の本質をわかりやすく解説。森林の面白さ、植生の面白さ、気候変動と森林の変化、生態系サービスと森林といったトピックも内容充実。

中村 徹 編著  
 A5判 176頁  
 本体2200円＋税 ISBN978-4-904074-36-7



日本は地震大国です。日本に住んでいる限り、巨大地震と複合的な要因で拡大していく災害から逃れることはできません。東日本大震災を例に「複合災害」という視点から巨大地震の発生メカニズムに始まり、地震や津波被害、今後の復興の課題について体系的に紹介していきます。

八木 勇治・大澤 義明 編著  
 A5判 228頁  
 本体2900円＋税 ISBN978-4-904074-38-1

**巨大地震による複合災害**  
 発生メカニズム・被害・都市や地域の復興

**株式会社 阿部兄弟建築事務所**  
 平成26年度東京ワークライフバランス認定企業  
<http://abeoffice.co.jp>



〒101-0032  
 東京都千代田区岩本町1-3-9 高木ビル  
 代表取締役 **荒井 豊人** (昭和57筑基工)  
 TEL 03-3866-4181 FAX 03-3866-4120

経営・労務・年金etc. コンサルタント  
**福岡経営労務事務所**

〒125-0042 葛飾区金町3-27-3  
 TEL 03(3607)0551 FAX 03(3607)0551

所 長 福岡 一雄 (32教大法政)  
 社会保険労務士

**株式会社 岩手チキン工房**  
 — みんなに笑顔をお届けします。 —

代表取締役 **田中 修** (昭54筑農林)  
 社長

〒028-3309 岩手県紫波郡紫波町北日詰字城内85-1  
 TEL : 019(676)4121 FAX : 019(676)4464  
<http://www.i-c-koubou.co.jp>

**JUWA**  
 株式会社 十和観光  
 代表取締役 井坂 信洋  
 社長

URL <http://www.juwa.com> E-mail: [travel@juwa.com](mailto:travel@juwa.com)  
 〒300-2451 茨城県つくばみらい市箕輪254  
 TEL 0297(52)1221 FAX 0297(52)1220

スポーツ&起業家&企業人「つくばウェイ」  
**TSUKUBA WAY プロジェクト**  
 ~ 茗溪・筑波OB・OGの活躍を集約!! ~  
<http://tsukubaway.com/>

株式会社 KTAJ  
 代表取締役 **藤田 文武** (体育専門学郡)  
 2004年卒

**FXC**  
 Future X Communications

FXC株式会社 <https://www.fxc.jp/>  
 当社は光通信機器やイーサネットスイッチ等のネットワーク機器を開発・製造し、各地の公立高校始め、官公庁、企業等に多数納入実績がございます。  
 創業者：代表取締役社長執行役員 谷輪 重之 (93筑修経営)

印刷・製本までトータルに対応  
**株式会社 ケイエスアイ**

東京営業所 〒102-0072 東京都千代田区飯田橋2-3-1  
 東京フジビル502号室  
 TEL 03-5357-1668 FAX 03-5357-1669

**株式会社 長谷工 コーポレーション**  
 〒105-8507 東京都港区芝2丁目32番1号  
 電話 03(3456)1578  
 常務執行役員 植岡 祥之 (昭57筑社工)

**つくばでの宿泊・研修に—**

ご家族で、お仲間で 最大収容180名、お一人3,800円から  
 茗溪会員とご家族に割引あり  
 研修セミナー・サークル発表会・各種会議・学習合宿・部活動合宿に  
 シングル145室ツイン5室和室5室/研修室2室 (120・40名)  
 和室も研修室として利用可 (20畳、10畳)  
 館内食堂《こうせい》でパーティ・懇親会等 (数名から80名まで)  
**アクセス** 秋葉原駅からつくばエクスプレスで45分「つくば駅」下車  
 ●バス/「筑波大学循環」3丁目「筑波メディカルセンター前」下車  
 徒歩8分 ●つくば駅からタクシー/5分

一般財団法人筑波学都資金財団  
**筑波研修センター**

〒305-0005 茨城県つくば市天久保 1-13-5  
 TEL 029-851-5152 / FAX 029-851-8886  
<http://www.meikei.or.jp/~center> e-mail: center@meikei.or.jp



(株)ブライダルは  
筑波大学同窓会会員の  
皆様の「結婚」を応援します。



結婚

## 41年の実績

(株)ブライダルは今まで法人福利厚生、官公庁、各大学会報誌などで、数多くの方々の結婚のお世話をさせて頂いております。少子化問題にも『結婚』という形で社会に貢献できる企業を目指しており、特に筑波大同窓会の皆様には平成17年より「筑波大コース」を設け、多くの方にご利用頂いております。この「茗溪」を見たとおっしゃってくだされば、茗溪会の皆様は登録料100%OFFにてご入会頂けます。

# 筑波大コース

登録料  
100%OFF

ブライダルコース  
¥231,000 ▶ ¥198,000 etc.\*

エクセレントコース  
¥396,000 ▶ ¥363,000 etc.\*

※価格は会員サポート費・月会費(12回分)の税込総額です。

お問い合わせ  
(月曜定休)



0120-415-412

詳しくはホームページをご覧ください。

(株)ブライダル

検索



ホームページ <http://www.bridal-vip.co.jp>



1978年創業  
株式会社

ブライダル

東京本社 〒163-0528 東京都新宿区西新宿1-26-2 新宿野村ビル28F  
Network / 東京・湘南・豊橋・名古屋

広告を募集しています。

事務局までご相談ください。

一般社団法人 茗溪会

〒112-0012

東京都文京区大塚1丁目5番23号

電話 03(3941)0136

FAX 03(3941)7674

eメール info@meikei.or.jp

ホームページ http://www.meikei.or.jp



桜美林大学

J. F. Oberlin University

リベラルアーツ学群 / 健康福祉学群  
ビジネスマネジメント学群 / 芸術文化学群  
グローバル・コミュニケーション学群  
航空・マネジメント学群(仮称)2020年4月開設予定

桜美林学園 理事長・学園長 佐藤 東洋士  
学長 畑山 浩昭  
入学部相談役 川田 孝一(昭39教大総農)

【お問合せ先】

〒194-0294 東京都町田市常盤町 3758

桜美林大学インフォメーションセンター

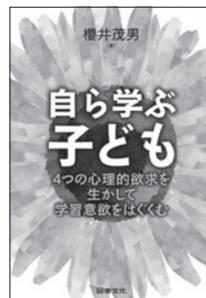
Tel.042-797-1583 E-mail:info-ctr@obirin.ac.jp



# 自ら学ぶ子ども

4つの心理的欲求を生かして学習意欲をはぐくむ

櫻井茂男 著 四六判224頁 定価(本体2,000円+税)



## どうすれば、子どものやる気を引き出せるか？

★これまでのやる気研究をベースに作成した、「自ら学ぶ意欲のプロセスモデル」を解説！

★4つの心理的欲求／評価とフィードバック／集団の力と個性を生かし、意欲を引き出す具体策を提案！

★学習場面だけでなく、部活動場面での対応にも言及！

### 目次

#### 第I部 やる気をどうとらえるか

- 第1章 やる気メカニズム
- 第2章 やる気はどこからくるのか
- 第3章 子どものやる気を発達の的にとらえる

#### 第II部 やる気をどう引き出し、育てるか

- 第4章 四つの心理的欲求を刺激してやる気を引き出す
- 第5章 適切な評価とフィードバックでやる気を引き出す
- 第6章 自己調整能力を育ててやる気を引き出す
- 第7章 集団の作用を生かしてやる気を引き出す
- 第8章 個性を生かしてやる気を引き出す
- 第9章 無気力から子どもを救い出す

〒112-0012 東京都文京区大塚1-4-15  
http://www.toshobunka.co.jp/

図書文化

TEL. 03-3943-2511 FAX. 03-3943-2519

Meikei-  
Making  
the  
Difference



Meikei  
High School

茗溪学園中学校高等学校

\* 茗溪学園は 1979 年に茗溪会の百周年記念事業で生まれた学校です

- ◆ 寮のある学校です  
海外からの外国人留学生も生活しています
- ◆ 国際バカロレア IBDP 課程認定校です
- ◆ 文部科学省 SSH・SGH アソシエイト認定校です
- ◆ 「知識」「体験」「考え方」  
——とことん学び身につけます
- ◆ 部活動が盛んな文武両道の学校です

**「個人課題研究発表会(筑波大学後援)及びSSH活動報告会」開催のお知らせ**

期日：令和2年2月21日(金)

会場：筑波大学・大会館

内容：本校高校2年生個人課題研究(優秀研究)  
口頭発表・ポスター発表ほかに令和元年度SSH活動成果報告  
一般公開いたします。

(詳細は下記メールでお問い合わせください)



アクセス つくばエクスプレスTX つくば駅A3A4出口 バスターミナル4番のりば「ひたち野うしく行」バス、  
「環境研究所」下車徒歩5分 または JRひたち野うしく駅 東口バス乗り場「つくばセンター行」  
e-mail kouhou@meikei.ac.jp (見学等) entry@meikei.ac.jp (入試等)